

クラス		受験番号	
出席番号		氏 名	

2014年度 第3回 全統記述模試

学習の手引き【解答・解説集】

英 語

【2014年10月実施】

本冊子巻末に「自己採点シート」と「学力アップ・志望校合格のための復習法」を掲載していますので、志望校合格へむけた効果的な復習のためにご活用ください。

河合塾



1461230119502030

【英 語】

「学習の手引き」を読むにあたって

この『学習の手引き』には、問題の解説は言うまでもなく、その問題のねらい、さらには今後の学習に役立つ指針が書かれています。この『学習の手引き』をじっくり読むことで、十分な復習をして、入試対策に万全を期してください。

1. 星印について

星印は、入試のレベルから見た場合に、それぞれの出題テーマ・設問形式において、どの程度の頻度と難易度の問題であるかを大まかに示しています。学習の目安にしてください。

- ★☆☆ 基本 難易度が低く、基礎的な内容の問題。
- ★★☆ 標準 難易度が標準的で、重要度が最も高い問題。
- ★★★ 発展 難易度が高く、応用的な内容を含む問題。

2. 解説について

【ポイント】 正答を得るための鍵となる知識や着眼点を示します。

- ▶ 追加・補足的な解説を示しています。
- ▷ 誤った解答と、それがなぜ間違っているかを示しています。

file 理解しておきたい文法・構文のワンポイント解説や、語い・熟語・語法に関する知識のまとめです。

【本文解説】 長文総合問題での英文本体の文ごとの解説です。1), 2), 3) ... は文番号を示します。

3. 「学習の手引き」で用いた略号

S	主語(原則として名詞)
V	動詞
O(O ₁ / O ₂)	目的語(原則として名詞)
C	補語(原則として名詞・形容詞・分詞)
A	前置詞の目的語
X / Y	成句の表現で共通関係にある要素
one's	人称代名詞の所有格
to do	to 不定詞
do	原形動詞・原形不定詞
doing	現在分詞もしくは動名詞
done	過去分詞
does	現在形
did	過去形
have done	完了形
that 節	接続詞 that によって導かれる節
wh-節	when / where / why / how / whether などに導かれる節
[]	言い換えることができる語句
()	省略することができる語句
/	語句・訳語などの列挙

1 Listening Comprehension

【2との選択問題】

【解答】

1. (C) 2. (B) 3. (C) 4. (D) 5. (D)

【配点】(15点)

各3点×5

【放送された英文と訳】

1) Four years ago, I lost everything I'd ever worked for. 2) My home and the business I'd fought to build were gone. 3) I'd dreamt of running a clothing store from the moment I sewed my first doll's dress, when I was seven. 4) After years of hard work, mostly in communications, I'd launched my own clothing brand, Mouse to Minx. 5) It felt amazing to see my dream become a reality.

6) Then one morning at the height of the recession in 2008, I opened my shop to find a letter from the bank on the doormat. 7) I had to repay the £25,000 they'd lent me to set up the business -- immediately. 8) With no way of raising the cash quickly, my only option was to close down. 9) Packing up and locking the door for the last time left me totally depressed.

10) I couldn't find another job, and finally, I lost my home. 11) My parents were both dead and I had no family to stay with, but a friend of a friend offered me a mattress in her attic. 12) The girl who used to work for me took my cat and everything else I owned was stored in friends' houses. 13) It was a powerful reminder of how generous people can be.

14) I felt a complete failure. 15) At 46, I'd lost everything I'd ever worked for. 16) The only chink of light was when I got a temporary job and managed to move into a flat. 17) A year later -- with a little help from a housing charity -- I moved from Bristol to Oxfordshire for a new job and a fresh start. 18) As soon as I walked into the cottage I was renting, I knew life was going to get better.

19) Despite everything, I never gave up on Mouse to Minx, and this summer I was finally able to restart it as an online-only business.

20) Unpacking the first box of dresses I'd designed myself was a very special moment. 21) I felt optimistic again and I'll certainly never take for granted how lucky I am to have a roof over my head.

1) 4年前に、それまでそのために働いてきたすべてを私は失った。 2) 私が必死で築いてきた家も事業もなくしてしまった。 3) 7歳だったころ、人形のドレスを初めて縫った時から、私は衣料品店を経営するのを夢に見ていた。 4) 主に通信業界で長年一生懸命働いてきた末に、私は私自身の衣料ブランド、マウス・トゥー・ミンクスを起ち上げた。 5) 夢が現実になるのを目にするのは素晴らしい気持ちだった。

6) そして、2008年の不況もピークとなったある朝、店を開けるとドアマットの上に銀行からの手紙があるのに気付いた。 7) 私は銀行が開業資金用に貸してくれた2万5千ポンドを返済しなければならぬというのだ——それもただちに。 8) 現金をすぐに集める方策もなかったので、廃業するしか手はなかった。 9) 荷物をまとめてドアに最後の施錠をすることは、私をすっかり落ち込ませた。

10) 私は次の仕事を見つけることができず、ついには家を失った。 11) 私の両親は2人とも死んでいたし、身を寄せることができる家族もいなかったが、友だちの友だちが彼女の屋根裏部屋のマットレスでよければと言ってくれた。 12) 私のところで昔働いていた女の子が私の猫を引き取ってくれたし、私が所有していた他のあらゆるものは友人たちの家に保管した。 13) それは人々がどんなに寛大かということを強く思い出させてくれた。

14) 私は自分が人生の完全な敗北者だと感じた。 15) 46歳で、私はそのために働いていたすべてを失った。 16) たった一筋の光明は、臨時の仕事もらって、なんとかアパートに入居したときのことだった。 17) 1年後、ある住宅慈善団体のちょっとした助けがあって、私は新しい仕事のためにブリストルからオックスフォードシャーへ移り、再出発を求めた。 18) 私が借りることになっている小さな家に入るやいなや、私には人生が良い方向へ向かい始めたのがわかった。

19) 何はともあれ、私はマウス・トゥー・ミンクスに決して見切りをつけることはせず、とうとう

うこの夏、オンライン専用ビジネスとしてそれを再開することができた。 20) 自分でデザインしたドレスの箱を開けるのは、とても特別な瞬間だった。 21) 私は再び楽観的な気持ちになったが、自分の頭の上に屋根があって幸運だということを、この先決して当たり前だとは思わないことは確かだ。

【語句・表現】

- be gone 「なくなる」
- dream of *doing* 「…することを夢見る」
- run O 「O を経営する」
- clothing store 「衣料品店」
- sew O 「O を縫う」
- mostly 「主に」
- communications 「通信機関, 通信業界」
- launch O 「O を始める」
- clothing brand 「衣料ブランド」
- amazing 「驚くべき, 見事な」
- become a reality 「現実になる」
- at the height of A 「A の極みで, A のピークで」
- recession 「不況」
- repay O 「O を返済する」
- set O up / set up O 「O を設立する, 始める」
- immediately 「即座に」
- raise O 「O(資金など)を集める」
- option 「選択肢」
- close down 「(店や会社などを)たたむ, 廃業する」
- pack up 「荷造りする」
- for the last time 「最後に」
- totally 「すっかり」
- depressed 「気落ちした」
- stay with A 「A のところに泊まる」
- attic 「屋根裏部屋」
- used to *do* 「昔は…した」
- store O 「O を保管する」
- reminder 「思い出させるもの」
- generous 「寛大な」
- feel a failure 「落ちこぼれだと感じる」
- a chink of light 「一筋の光明」
- temporary job 「臨時の仕事」
- manage to *do* 「どうにか…する」
- housing charity 「住宅慈善団体」
- fresh start 「再スタート」
- cottage 「小屋, 小さな家」
- rent O 「O を借りする」

- get better 「快方に向かう, 好転する」
- despite everything 「何はともあれ」
- give up on A 「A に見切りをつける」
- unpack O 「O の梱包を解く, O を開く」
- optimistic 「楽観的な」
- take for granted ... 「…を当然のことと思う」

【設問別解説】

1. ★☆☆

【放送された質問文と訳】

What was the speaker's dream when she was seven?

7歳のときの話し手の夢はなんだったか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 幸せな結婚をしている女性になること。
- (B) 有名な会社に勤めること。
- (C) 衣料品店を営営すること。
- (D) 人形のドレスを縫うこと。

第3)文に「7歳だったころ, 人形のドレスを初めて縫った時から, 私は衣料品店を営営するのを夢に見ていた」と述べられているので, (C)が正解。

2. ★★☆☆

【放送された質問文と訳】

Why did the speaker have to close her shop?
なぜ話し手は自分の店を閉めねばならなかったか?

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) そのころまでには, 話し手には実現すべき別の夢があった。
- (B) 銀行が話し手に貸し付けた金を全額返済するように伝えた。
- (C) 店が2万5千ポンドの損失を出した。
- (D) 店は営業を続けていけるほど服が売れなかった。

第7)文と第8)文で「銀行から2万5千ポンドの急な返済をせまられて, 廃業するしか手はなかった」ということが述べられているので, (B)が正解。

3. ★★★★★

【放送された質問文と訳】

What is NOT mentioned in the passage after the speaker lost her home?

話し手が家を失ってからのもので、本文に言及されていないことは何か？

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 以前の従業員が話し手の猫を引き取った。
- (B) 友だちの友だちが屋根裏のマットレスを提供してくれた。
- (C) 話し手の家族がいつもそばにいてくれて応援してくれた。
- (D) 何人かの友人たちが話し手の所有していたものを保管してくれた。

第11)文前半に「私の両親は2人とも死んでいたし、身を寄せることができる家族もいなかった」と述べられているので、言及されていないのは(C)である。同文後半に「友だちの友だちが彼女の屋根裏部屋のマットレスでよければと言ってくれた」と述べられているので、(B)については言及されている。第12)文前半に「私のところで昔働いていた女の子が私の猫を引き取ってくれた」と述べられているので、(A)についても言及がある。同文後半に「私が所有していた他のあらゆるものは友人たちの家に保管した」とあるので、(D)についても言及されている。以上から、(C)が正解。

4. ★★★

【放送された質問文と訳】

How old is the speaker now?
話し手は今何歳か？

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 11歳。
- (B) 46歳。
- (C) 47歳。
- (D) 50歳。

第1)文に「4年前に、それまでそのために働いてきたすべてを私は失った」とあり、第15)文に「46歳で、私はそのために働いていたすべてを失った」と繰り返されることから、話し手は今、50歳であると考えられる。したがって、(D)が正解。

5. ★★☆☆

【放送された質問文と訳】

What happened this summer that made the speaker happy?
今年の夏、話し手を幸せにするどのようなことが起こったか。

【問題冊子の選択肢の訳】

- (A) 話し手はとうとう友だちの家を出て小さな家に移った。
- (B) 話し手はオックスフォードシャーで新しい仕事を得た。
- (C) 話し手は人々がどんなに寛大になり得るかを心に留めた。
- (D) 話し手は自分の新しいオンラインショップを始めた。

第19)文に「何はともあれ、私はマウス・トゥー・ミンクスに決して見切りをつけることはせず、とうとうこの夏、オンライン専用ビジネスとしてそれを再開することができた」とあることから、(D)が正解。

② 中文空所補充問題

【①との選択問題】

【解答】

- (1) (㉞) (2) (イ) (3) (㉞) (4) (エ)
- (5) (㉞)

【配点】(15点)

各3点×5

【出典】

How Sweden Plans To Turn The World's Trash Into Cash!: www.dogonews.com (Nov. 2012)

【本文解説】

＜第1段落＞

1) At a time when most countries are struggling to figure out where to dump all the trash that is generated on a daily basis, Sweden is turning the other cheek — they want more trash. 2) In fact they want it so badly that they plan to import 800,000 tons of it from other countries.

1) 毎日生み出される大量のゴミをどこに投棄すべきかという問題を解決しようとはとどの国が苦心している時代に、スウェーデンはもう一方の頬を向けている。つまり、ゴミをもっと求めているのだ。 2) 実際、スウェーデンではゴミがぜひとも必要であり、他の国々から80万トンのゴミの輸入を計画している。

- 1) ・ when most countries ... on a daily basis は、a time を先行詞とする関係副詞節。
- ・ that is generated on a daily basis は、all the

trashを先行詞とする関係代名詞節。

- ・turn the other cheekは「もう一方の頬を向ける」の意味。ここでは、ふつうは嫌われるゴミを、自ら望んで受け入れようとしている事態について、「逆向きの姿勢を示している」と表現したもの。この表現の元になっているのは、聖書の一節である、Whoever strikes you on your right cheek, turn to him the other also.「誰かがあなたの右の頬を打つなら、もう一方の頬をも向けなさい」という、たとえ他人からひどい仕打ちを受けたとしても、相手を受け入れるよう説いた言葉である。
- 2) ・they want it so badly that they plan to import ... は、so ... that ~「とても…なので〜だ」を用いた表現。以下の第4)文でも同じ表現が用いられている。
- ・want ... badlyで「…をひどく必要としている」の意味。badlyは「とても、ひどく」の意味になることがある。

[例] I badly need your help.

(あなたの手助けがどうしても必要なのです)

- struggle to do「…しようと苦心する」
- figure O out / figure out O「O(問題など)の解決法がわかる」
- dump O「O(不要な物)を投げ捨てる」
- trash「ゴミ」
- generate O「Oを生み出す」
- on a daily basis「毎日」
- import O「Oを輸入する」

＜第2段落＞

3) In the 1940s, when most of the world had never even considered (1) a recycling plant, this progressive country began a program to incinerate its garbage and turn it into energy. 4) While this initially released harmful toxins into the atmosphere, over the years, the country has improved the technique so much that these have now been reduced to very low levels.

3) 世界のほとんどの地域ではリサイクル工場を建設することなどまったく考えてもいなかった1940年代に、この進歩的な国はゴミを焼却してエネルギーに変える計画を開始した。4) 当初はこれによって有害な毒素が大気中に放出されたが、長い年月をかけて、この国ではその技術が大

いに改良したので、これらは今では非常に低いレベルになっている。

- 3) ・空所(1)については、【設問別解説】参照。

・this progressive country「この進歩的な国」とはスウェーデンのこと。

- 4) ・these とは these harmful toxins「これらの有害な毒素」のこと。

- recycling plant「リサイクル工場」
- progressive「進歩的な」
- garbage「ゴミ」
- turn O into A「OをAに変える」
- initially「初めは」
- release O「Oを放出する」
- harmful「有害な」
- toxin「毒素」
- atmosphere「大気」
- technique「技術」
- reduce O to A「OをAにまで減らす」

＜第3段落＞

5) (2), the energy produced by these plants has steadily increased, so that today they generate enough energy to provide heat to about 810,000 households (that's about 20% of all Swedish homes) and electricity to 250,000. 6) And there's more to this story.

5) それと同時に、こうした工場で生み出されるエネルギーは着実に増えてきており、その結果今日では、約81万世帯(スウェーデンの全世帯の約20%)に熱を供給し、かつ25万世帯に電気を供給できるだけのエネルギーを生み出している。6) そして話はこれにとどまらない。

- 5) ・空所(2)については、【設問別解説】参照。

・provide heat to about 810,000 households (that's about 20% of all Swedish homes) and electricity to 250,000 は、provide O to A「OをAに供給する」を用いた表現。Oにあたるのはheatとelectricityの2つ。250,000とは250,000 householdsのこと。

- 6) ・there's more to this story は、There is more to A (than B).「Aには(Bだけでなく)それ以外の意味[側面]がある」という決まり表現を用いたもの。

[例] There is more to education than test scores.

(教育というのはテストの成績がすべてではない)

- steadily 「着実に」
- ..., so that ~ 「...し、その結果～」
- household 「家庭、世帯」
- Swedish 「スウェーデンの」

〈第4段落〉

7) Thanks to intense public awareness messages, strict laws and an amazingly conscientious population, only 4% of all Swedish trash ends up in a landfill. 8) In contrast, 63% of the trash generated in the USA ends up in landfills.

7) 人々の意識を高める強いメッセージ、厳しい法律、および驚くほど良識ある住民のおかげで、スウェーデンのすべてのゴミのうち、最終的に埋め立て地に持ち込まれるのは、わずか4%である。8) 対照的に、アメリカで生まれるゴミの63%が埋め立て地に持ち込まれている。

- 7) ・ Thanks to intense public awareness messages, strict laws and an amazingly conscientious population は、thanks to A 「Aのおかげで」を用いた表現。Aにあたるのは、intense public awareness messages と strict laws と an amazingly conscientious population の3つ。
- intense 「強烈な」
 - awareness 「認識、意識」
 - strict 「厳格な」
 - amazingly 「驚くほど」
 - conscientious 「良心的な」
 - population 「人口、住民」
 - end up in A 「最終的にAに行く」
 - landfill 「埋め立て地」
 - in contrast 「対照的に」

〈第5段落〉

9) However, all this 'greenness' has resulted (3) a unique problem. 10) While its incinerator plants have the capacity to process up to 2 million tons of household trash each year, they don't get enough raw material. 11) Hence the decision to import other countries' trash — something that is definitely not in short supply (4) else in the world.

- 9) しかしながら、こうした「環境に優しい姿

勢」は独自の問題を生み出している。10) 焼却施設には年間最大200万トンの家庭ゴミを処理する能力がある一方で、原料が十分得られていないのだ。11) したがって、他国のゴミという、明らかに世界の他のどこでも供給不足ではないものを輸入するという決断をすることとなった。

- 9) ・ greenness は「環境に優しいこと、環境問題意識が高いこと」の意味だが、ここでは「ゴミをほとんど廃棄することなくエネルギー源として活用していること」を指す。

・ 空所(3)については、【設問別解説】参照。

- 11) ・ Hence the decision ... は、〈Hence+名詞。〉「したがって...となる」を用いた形。

【例】 No one helped him. Hence his failure.
(誰も彼を手伝わなかった。それゆえ彼の失敗ということになったのだ)

・ ダッシュ(—)に続く something that is definitely not in short supply (4) else in the world は、直前の other countries' trash に対する補足説明。

・ 空所(4)については、【設問別解説】参照。

- unique 「独自の」
- incinerator plant 「焼却施設」
- have the capacity to do 「...する能力がある」
- process O 「Oを処理する」
- up to A 「最大Aまで」
- raw material 「原材料」
- definitely 「明らかに」
- in short supply 「供給不足の」

〈第6段落〉

12) Neighboring Norway 'has already begun sending its garbage, while Bulgaria, Romania and Italy are seriously considering the proposition too. 13) All in all, Sweden expects to import 800,000 tons each year. 14) They are of course charging heavily for this 'import', but we somehow think there will not be much argument over the cost.

12) 隣国のノルウェーはすでにそのゴミを送り始めており、一方でブルガリア、ルーマニア、イタリアも真剣にこの提案を検討している。13) 合計すると、スウェーデンは毎年80万トンを入力するつもりである。14) スウェーデンはこの「輸入」に対してはもちろん高額の費用を請求しているが、どうやら費用をめぐる議論にはあまり

ならないだろうと思われる。

- 12) ・ the proposition 「この提案」とは、スウェーデン側の「ゴミを輸入するという提案」のこと。
- 14) ・ there will not be much argument over the cost 「費用をめぐる議論にはあまりないだろう」とは、ゴミの処分に苦勞している各国からすればゴミを引き取ってくれるのはありがたいことなので、スウェーデンが高額の費用を請求してきても交渉が難航しないだろう、ということ。
- neighboring 「隣接している」
 - proposition 「提案」
 - all in all 「あらゆる点を考慮すると、合計で」
 - charge for A 「A の代金を請求する」
 - somehow 「どうにか、どうやら」
 - argument over A 「A をめぐる議論」

＜第7段落＞

15) Now, (5) all the countries could line up to learn how the Swedes were able to do what none of us can or really want to do, innocent marine animals would not have to deal with our plastic bags, bottles and everything else we dump in the oceans.

15) さて、私たちの誰にとってもできるわけでも本当にしたいわけでもないことを、スウェーデンの人々がどのようにしてできたかを学ぶために、あらゆる国々がその列に加わることができさえすれば、罪のない海の生き物たちが、ポリ袋、ペットボトル、その他私たちが海に捨てるあらゆるものに対処する必要はなくなることだろう。

- 15) ・ 空所(5)については、【設問別解説】参照。
- ・ how the Swedes were able to do what none of us can or really want to do は「私たちの誰にとってもできるわけでも本当にしたいわけでもないことを、スウェーデンの人々がどのようにしてできたか」という意味で、この部分が to learn の目的語になっている。
 - ・ what none of us can or really want to do とは、what none of us can do or really want to do 「私たちの誰にとってもできるわけでも本当にしたいわけでもないこと」ということ。ここでは「ゴミをほとんど埋め立てずに、リサイクルすることで環境を守ろうとする行為」を指

す。

- ・ deal with の目的語は our plastic bags と (our plastic) bottles と everything else の3つ。
- ・ our plastic bags, bottles は、our plastic bags, our plastic bottles ということ。plastic bags とは「ポリ袋、レジ袋」、plastic bottles とは「ペットボトル」のことである。
- ・ we dump in the oceans は関係詞節で、先行詞は everything else。

- line up to do 「…するために並ぶ、行列に加わる」
- Swede 「スウェーデン人」
- innocent 「罪のない」
- marine 「海の」
- deal with A 「A に対処する」
- plastic 「プラスチックの、ビニールの」

【設問別解説】

(1) ★☆☆

【ポイント】

動詞 consider の語法

この文章は、スウェーデンが他国に先がけてゴミを焼却してエネルギーに変え始め、今では燃料として隣国からゴミを輸入するようになっていることを紹介するものである。

空所を含む第3)文では、when most of the world ... a recycling plant が the 1940s を先行詞とする関係副詞節になっている。節中では S が most of the world, V が had never even considered である。consider は動名詞を目的語にとって consider doing で「…することを考える、検討する」の意味になる。この形にすると、「世界のほとんどの地域がリサイクル工場を建設することなどまったく考えてもいなかった時代に、スウェーデンはゴミを焼却してエネルギーに変える計画を始めた」という趣旨になり、文意が通る。したがって、(ウ)が正解。

▷ consider は目的語に不定詞句をとらないので、(ウ)の to build は不可。目的語に動名詞をとり、不定詞をとらない動詞については、以下の **file** 参照。

file 不定詞 / 動名詞を目的語にとる動詞

1. 不定詞を目的語にとり、動名詞を目的語にとらない主な動詞

decide to do 「…するのを決める」
hope to do 「…するのを望む」
plan to do 「…するつもりである」
pretend to do 「…するふりをする」

promise to *do* 「…すると約束する」

wish to *do* 「…したいと思う」

2. 動名詞を目的語にとり、不定詞を目的語にとらない主な動詞

avoid *doing* 「…するのを避ける」

consider *doing* 「…することを考える、検討する」

deny *doing* 「…するのを否認する」

enjoy *doing* 「…するのを楽しむ」

finish *doing* 「…するのを終える」

give up *doing* 「…するのをやめる」

mind *doing* 「…するのを気にする」

practice *doing* 「…する練習をする」

put off *doing* 「…するのを延期する」

3. 不定詞と動名詞の両方を目的語にとり、大きく意味が変わる主な動詞

remember *doing*

「…したことを覚えている」

remember to *do* 「忘れずに…する」

forget *doing* 「…したことを忘れる」

forget to *do* 「…し忘れる」

(2) ★☆☆

【ポイント】

空所に入る語の文法的な働きは？

空所を含む文は、the energy が S, has increased が V で、空所は文頭の S の前に置かれているので、副詞表現が入ると考えられる。空所に副詞の働きをする Meanwhile 「それと同時に、その一方で」を入れれば、直前の第4)文の「ゴミ焼却によって放出される有害な毒素が非常に少なくなっている」ということと、「ゴミ焼却によって生み出されるエネルギーが着実に増えている」ということが同時に起こっていると述べていることになり、文意が通る。したがって、(i) が正解。

▷(a)の While は接続詞なので不可。

▷(c)の Worthwhile は「価値のある」という意味の形容詞であり、これでは文意が通らない。

▷(e)の After a while は「しばらくして」の意味の副詞表現だが、これでは文脈に合わないので不可。

(3) ★☆☆

【ポイント】

動詞 result の語法

空所を含む第9)文は、all this 'greenness' 「こうした『環境に優しい姿勢』」が S, has resulted が V で、空所に続く a unique problem 「独自の問題」の内容は、次の第10)文に述べられている「焼却施設の燃料となるゴミの不足」のことであると考えられる。A result in B 「A(原因)が B(結果)をもたらす」の形にすると、「環境に優しいゴミ活用の姿勢が、ゴミ不足というスウェーデン独自の問題を生み出している」という趣旨になり、文意が通る。したがって、(a) が正解。

▷「(結果)をもたらす」の意味で (×) result as ... ,

(×) result of ... を用いることはないので、(i), (c) は不可。

▷(e)を入れると A result from B の形になるが、「A(結果)は B(原因)に起因する」の意味となり、これでは直後の第10)文でその内容が述べられる a unique problem が原因となって、all this 'greenness' 「こうした『環境に優しい姿勢』」が生まれたことになるので、文意にそぐわず不可。

(4) ★☆☆

【ポイント】

not ... anywhere else

空所を含む第11)文は、「燃料となるゴミ不足の問題から、スウェーデンは他国のゴミを輸入することになった」ということを述べており、ダッシュ(一)に続く something that is definitely not in short supply (4) else in the world は、直前の other countries' trash 「他国のゴミ」に対する補足説明になっている。not ... anywhere else 「他のどこでも…ない」の形にすると、この部分は「明らかに世界の他のどこでも供給不足ではないもの」という意味になり、第1)文に述べられている「世界中の国が(多すぎる)ゴミをどこに投棄すべきかという問題に苦しんでいる」という状況にも合う。したがって、(e) が正解。

▷(a)の where には接続詞・関係副詞・疑問詞などの用法があるが、どの用法と考えても文として成り立たないので不可。

▷(i)の of where を入れても文が成立しないため不可。

▷(c)の somewhere を入れると「明らかに世界の他のどこかある一部では供給不足ではないもの」の意味になるが、文脈に合わないので不可。

(5) ★★★

【ポイント】

仮定法を見抜く

空所を含む第15)文は、(5) all the countries ... want to do までが副詞節であり、主節の S が innocent marine animals, V が would not have to deal である。V に <would+原形> が用いられていることと、「罪のない海の生き物たちが、ポリ袋、ペットボトル、その他私たちが海に捨てるあらゆるものに対処する必要はなくなる」という主節の内容が事実と反していること、また副詞節の動詞が could line up to learn となっていることから、空所を含む文では仮定法過去が用いられていることがわかる。したがって、仮定法過去の条件節を導くことができる、(ウ)の if only が正解。

▶ if only S V ... の表現を用いた例は、次の通り。

【例】 If only I could turn back time, I would do everything right.

(時間を戻せさえすれば、すべてうまくやるのに)

▶ 空所を含む文の趣旨は、「あらゆる国がスウェーデンの例に学んでゴミを減らすことができさえすれば、海の生き物たちは捨てられたゴミに苦しまずに済むことだろう」ということ。

▷ (ア)の whether 「…であろうとなかろうと」、(イ)の just as 「ちょうど…のときに」、(エ)の only when 「…のときにだけ」は、いずれも仮定法過去の条件節を導くことができないので不可。

③ 文法・語法

【解答】

- A 1. (エ) 2. (イ) 3. (ウ) 4. (ウ)
5. (イ) 6. (ア) 7. (エ) 8. (ウ)
B 1. about 2. next

【配点】(20点)

A 各2点×8 B 各2点×2

【設問別解説】

A 空所補充選択問題

1. ★☆☆

Could you help (with the preparations)? I can't do everything by myself.

「準備するのを手伝ってもらえませんか? 自分1人で全部はできないので」

- (ア) the preparations
(イ) me the preparations
(ウ) to the preparations
(エ) with the preparations

【ポイント】

help の後続要素として正しいものは?

help with A で「A(仕事)を手伝う、助ける」の意味を表すことができる。したがって、(エ)の with the preparations が正解。

【例】 My children help with the dishes every day.

(子どもたちは毎日皿洗いを手伝ってくれる)

▷ (ア)の the preparations は、前に with がないので不可。help O with A で「O(人)が A(仕事)をするのを手伝う、助ける」の意味で用いられるが、目的語の O は助けられる側の人などでなければならない。

▷ (イ)の me the preparations は、the preparations の前に with がないので、不可。help には、(×)help O₁ O₂ のように二重目的語をとる用法はない。

▷ (ウ)の to the preparations は、前置詞が with になっていないので、不可。help to do 「…するのを手伝う、助ける」の表現はあるが、その場合 to 以下が不定詞になっていなければならない。

2. ★☆☆

His explanation was (far) from satisfactory.

「彼の説明は決して満足できるものではなかった」

- (ア) away (イ) far
(ウ) free (エ) nothing

【ポイント】

far from (being) ...

文末の形容詞 satisfactory は「満足のいく、申し分ない」の意味だが、far from (being) ... 「決して…でない」という否定表現を用いて、far from satisfactory とすると、「決して満足できるものではない」という意味になる。したがって、(イ)が正解。

▶ ここでは前置詞の後ろに形容詞が来ていることに注意。

▷ (ア)の away は、away from A で「A から(空間的に)離れている」の意味なので、不可。

▷ (ウ)の free は、free from A で「A(束縛・欠点など)がまったくない」の意味であり、A に形容詞が来ることはないので、不可。

【例】 No one is free from fault.

(欠点のない人はいない)

3. ★★☆☆

We took a left turn when we (should have gone) right.

「右折しなければならないのに左折してしまった」

- (ア) could go (イ) might go
(ウ) should have gone (エ) would have gone

【ポイント】 should have done

should have done で「…すべきだったのに(しなかった)」という意味を表すことができる。これは過去において実行すべきだったのにしなかった内容を述べるのに用いる。本問では should have gone right とすれば、「右折するべきだったのに(しなかった)」の意味になり、文意が通る。したがって、(ウ)が正解。

[例] You should have been more careful.

(あなたはもっと注意すべきだった)

▶ should have done には「…した[してしまった]はずだ」という過去のことについての推量を表す用法もある。

[例] He should have arrived there by now.

(彼は今ごろ向こうに着いているはずだ)

▷(ア)の could go は、この文脈では過去の能力と現在の推量のどちらかの意味になるが、いずれの意味でも文意が通らない。

▷(イ)の might go は、通例、現在または未来のことに言及するので不可。

▷(エ)の would have gone は、「行ってしまっただろう(に)」の意味になり、文意が成立しないので不可。

4. ★★☆☆

I haven't had canned tuna in years, and (neither has my cat).

「ここ何年も缶詰のツナを食べていないし、ペットの猫も同じだ」

- (ア) neither my cat has (イ) nor my cat has
(ウ) neither has my cat (エ) so has my cat

【ポイント】 neither + 助動詞 [be 動詞] + S

否定文に続いて「S もまた同じだ」と言う場合、
〈neither [nor] + 助動詞 [be 動詞] + S〉という倒置の語順になる。したがって、(ウ)の neither has my cat

が正解。

▶ 問題文の後半部は、My cat has not had canned tuna in years, either. 「ペットの猫もまたここ何年も缶詰のツナを食べていない」という文を前提として、neither が my cat の前に出ると同時に助動詞の has も my cat の前に出て倒置の形となっている。「…もまた同様に～する[しない]」の表現については、以下の **file** 参照。

▷(ア)の neither my cat has と、(イ)の nor my cat has は、has が my cat の前に出ているので不可。

▷(エ)の so has my cat は、肯定文に続く形なので不可。

file 「…もまた同様に～する[しない]」の表現

先行する内容や相手の発言を受けて、「…もまた同様に～する[しない]」という意味を表すには、次のような表現を用いる。

1. 肯定文を受ける場合

「…もまた同様に～する」

・一般動詞の場合→ **So + do + S**

[例] "I went to the concert yesterday."

"Oh, did you? **So did I.**"

(昨日そのコンサートに行ったんだ)

(あら、そうなの? 私も行ったわ)

・助動詞の場合→ **So + 助動詞 + S**

[例] "Your brother can play the piano."

"**So can I.**"

(君のお兄さんはピアノが弾けるんだね)

(僕だって弾けるよ)

・be 動詞がある場合→ **So + be + S**

[例] "My father is a teacher."

"**So is mine.**"

(僕の父は教師です)

(私の父もそうです)

2. 否定文を受ける場合

「…もまた同様に～しない」

・一般動詞の場合→ **Neither / Nor + do + S**

[例] "I don't like cheese."

"**Neither do I.**"

(僕はチーズが嫌いだ)

(私も嫌いよ)

・助動詞の場合→ **Neither / Nor + 助動詞 + S**

[例] "I can't solve this problem."

"**Nor can I.**"

(この問題が解けないよ)

(僕も解けないよ)

・be 動詞の場合→ **Neither / Nor+be+S**

[例] "You aren't wrong."

"**Neither are you.**"

(君は間違っていないよ)

(君だって間違っていないよ)

5. ★★★

This is the site (I believe is) perfect for the new hospital.

「これが、新しい病院を建てるのに申し分ないと私が思っている場所です」

(ア) where I consider (イ) **I believe is**

(ウ) I regard (エ) that they say

【ポイント】
先行詞+(which) I believe is ...

This is the site. と I believe that it is perfect for the new hospital. の2文を関係代名詞でつなぐときには、後の文の that 節中の主語 it が which となって主節の I believe の前に移動して、接続詞 that は省略され、This is the site which I believe is perfect for the new hospital. となる。この文では、さらに関係代名詞の which を省略し、This is the site I believe is perfect for the new hospital. とすることもできる。したがって、(イ)が正解。

▷(ア)の where I consider は、consider O C「OをCと考える」のOにあたる名詞がないことになるので不可。

▷(ウ)の I regard は、regard O as C「OをCとみなす」のasがないので不可。

▷(エ)の that they say は、say の後に is がいないので不可。

6. ★★★

(It is suggested you use) this software for such a purpose.

「そういう目的にはこのソフトの使用が推奨される」

(ア) **It is suggested you use**

(イ) It is suggested using

(ウ) You are suggested that you use

(エ) You are suggested to use

【ポイント】
suggest の語法から適切な形を考える

suggest は suggest (to A <人など>) (that) S V の形式で「(Aに)…するよう提案する、勧める」という意味を表し、it is suggested (that) S V という受動態になることもある。したがって、(ア)が正解。

▷ suggest doing 「…しようと提案する」は可能だが、it is suggested doing という用い方はできないので、(イ)は不可。

▷(ウ)と(エ)はどちらも You を主語とした受動態になっているが、suggest には(×)suggest you that ... という用法も、(×)suggest you to do という用法もないので、(×)You are suggested that ... や(×)You are suggested to do という用い方もできない。したがって、両者とも不可。

7. ★★★

The man, (I was told), had come home at about midnight.

「その男は夜の12時ごろに帰宅したと私は告げられた」

(ア) I argued that (イ) he seemed

(ウ) I was said (エ) **I was told**

【ポイント】
主節相当語句の挿入

空所を除くと、The man had come home at about midnight. という過去完了形の文になる。この文は、選択肢がいずれも S V の形になっているので、主節に相当する部分が空所に挿入されていると考えればよい。I was told であれば、これを本来の主節の位置に戻すと、I was told that the man had come home at about midnight. という構造的に正しい英文になる。したがって、(エ)が正解。

▷(ア)の I argued that は、that を伴っているので不可。挿入節になる場合、接続詞の that は用いられない。I argued だけなら挿入可能。

▷(イ)の he seemed は、He seemed to do のように不定詞が後続する表現なので不可。he seemed でなく it seemed なら挿入可能。

▷(ウ)の I was said は、I was said to do 「私は…と噂された」のように不定詞が後続する表現なので不可。it was said なら挿入可能。

Methane hydrate, an ice-like substance (**consisting**) of methane and water that is stable at low temperatures and under high pressure, could become a critical source of energy.

「メタンハイドレートは、メタンと水から成る氷のような物質で、低温高圧の下で安定して存在するのだが、これから重要なエネルギー源になる可能性がある」

- (ア) consisted (イ) consists
(ウ) **consisting** (エ) is consisted

【ポイント】 分詞句の後置修飾

本問の英文の骨格は Methane hydrate(S) could become(V) a critical source of energy(C). で、S の Methane hydrate を説明する同格の表現が an ice-like substance ... high pressure の部分である。したがって、この部分は S+V という独立した文を作るのではなく、空所以下 high pressure までが an ice-like substance を修飾する形にしなければならない。consist は、consist of A という形で用い、「A で構成されている、A から成っている」という意味になる。これを分詞句にすれば an ice-like substance を修飾できるので、(ウ)の consisting が正解。

▶ 参考のために、consisting を用いた句が直前の名詞を修飾する例を挙げておく。

【例】She had a light breakfast consisting of toast and a cup of tea.
(彼女はトーストと紅茶 1 杯の軽い朝食を摂った)

▶ 空所以下を関係詞節を用いて表すと、an ice-like substance which [that] consists of methane and water that is ... となる。

▶ that is stable at low temperatures and under high pressure は an ice-like substance consisting of methane and water を修飾する関係詞節。つまり、consisting of methane and water という分詞句に修飾された an ice-like substance が、that is stable at low temperatures and under high pressure という関係詞節によって、さらに限定的に修飾された形になっている。

▷ (ア)の consisted は、過去形と考えれば an ice-like substance ... pressure が独立した文になってしまうので不可。過去分詞と考えても、consist が自動詞

なので受動態をつくらず、過去分詞による修飾ができないので不可。

▷ (イ)の consists は現在形で、an ice-like substance ... pressure が独立した文になってしまうので不可。

▷ (エ)の is consisted は、自動詞 consist が受動態をつくらず、しかも an ice-like substance ... pressure が独立した文になってしまうので不可。

B 共通語補充問題

1. ★☆☆

- a. We arrived just as the ceremony was (about) to begin.
b. Reading can totally change your views on what life is all (about).
c. I've noticed there's something strange (about) John.

- a. 式典がまさに始まろうとしている時に私たちは到着した。
b. 読書は人生観をすっかり変えてしまうことがある。
c. ジョンにはどこか奇妙なところがあると私は気づいている。

【ポイント】 about の様々な用法

- a. be about to do で「(まさに)…しようとしている」という意味。
b. What is S all about? で「S の本質[目的]は何か」という意味。本問はこの表現を前置詞 on の目的語に置き、間接疑問の語順をとったもの。
c. There's something ... about A. で「A にはどこか…なところがある」という意味。

2. ★☆☆

- a. The restaurant is (next) door to the bank.
b. I'll be seeing him the week after (next).
c. Finishing the job by 10 o'clock will be (next) to impossible.

- a. そのレストランは銀行の隣にある。
b. 再来週、私は彼と会うことになるでしょう。
c. 10時までにその仕事を終えるのはほとんど不可能だ。

【ポイント】
next の様々な用法

a. next door to A で「Aの隣に」という意味。

b. the week after next で「再来週(に)」という意味。

c. next to impossible で「ほとんど不可能な」という意味。

④ 長文総合問題

【解答】

問1 今後数十年以内の絶滅を防ぐため、サメの多くの種には、より手厚い保護が必要だと、絶滅危惧種取引に関する国際会議に先立って研究者たちは警告した。

問2 世界中のサメの6.4%から7.9%が毎年殺されていると推計されており、それはいくつかの種の個体数の減少につながっている。

問3 成長が遅く、生殖できるようになるまでに年月がかかること。(28字)

問4 (エ)

問5 (ウ)

問6 (a) to (b) from

(c) on (d) like

問7 (ウ)

【配点】(60点)

問1 14点 問2 10点 問3 12点

問4 5点 問5 5点 問6 2点×4

問7 6点

【テーマ】

「サメの目には表情がない。人形の目と同じだ。だが、食いつく瞬間、その死んだような目がひっくり返って白くなる…」スビルバーグの映画『ジョーズ』でロバート・ショウが演じるサメ狩りの名人が語っている。名人は米海軍重巡洋艦インディアナポリスの乗員だったが、艦はテニアン島に原子爆弾を運んだ帰りに魚雷を食らって沈没。あたりはサメの海。乗員1,100人のうち、サメの餌食にならずに救出されたのは316人だった…という話。そんなプレデターとしてのサメが今や絶滅の危機に瀕しているというのだ。サメを絶滅危惧種に追い込んだプレデターは…そう、私たちなのである。

【出典】 *Sharks at risk of extinction from overfishing, say scientists: theguardian.com* (March 2, 2013)

【本文解説】

＜第1段落＞

1) Sharks risk being driven to extinction due to overfishing, with almost 100 million killed each year, scientists have warned. 2) (1) Many species of shark need better protection to prevent their extinction within coming decades, researchers warned in advance of a global conference on the trade in threatened species. 3) The Convention on International Trade in Endangered Species (CITES) will consider greater protection of vulnerable sharks, including porbeagles, oceanic whitetip and three types of hammerhead, to preserve their populations.

1) サメは毎年ほぼ1億尾が殺され、乱獲のために絶滅に追いやられる恐れがあると、科学者たちは警告している。 2) 今後数十年以内の絶滅を防ぐため、サメの多くの種には、より手厚い保護が必要だと、絶滅危惧種取引に関する国際会議に先立って研究者たちは警告した。 3) 絶滅危惧種国際取引協定(CITES)は、ニシネズミザメ、ヨゴレザメ、3種類のシュモクザメを含む、被害を受けやすいサメたちの個体数を維持するために、その保護強化を検討するだろう。

- 1) ・Sharks risk being ... due to overfishing は have warned の目的語の名詞節が文頭に出たもの。
・with almost 100 million killed each year は付帯状況の表現で、直前の文に説明を付加している。第5)文と第21)文にも同様の表

- shark 「サメ、フカ」
- risk doing 「…する恐れがある」
- drive O to A 「OをAに追いやる」

現が用いられている。with を用いた付帯状況の表現については、本模試の⑥A1の解説にある「file」を参照。

- 2) ・下線部(1)については、【設問別解説】参照。
- 3) ・including porbeagles ... types of hammerhead は vulnerable sharks の具体例を示している。
- ・to preserve their populations は目的を表す副詞用法の不定詞句で、will consider を修飾している。

- extinction 「絶滅」
- due to A 「Aのために」
- overfishing 「魚の乱獲」
- warn (that) ... 「…だと警告する」
- species 「(生物)種」
- protection 「保護」
- prevent O 「Oを防ぐ」
- coming 「来たるべき、今後の」
- decade 「十年間」
- in advance of A 「Aに先立って」
- global conference 「国際会議」
- trade 「取引、売買」
- threatened species 「絶滅危惧種」
- the Convention on International Trade in Endangered Species 「絶滅危惧種国際取引協定」
- consider O 「Oを考慮する、検討する」
- including A 「Aを含めて」
- preserve O 「Oを維持する」
- population 「個体数」

〈第2段落〉

4) Sharks are caught for their fins for use in shark fin soup, a delicacy in Asia. 5) The fins are cut off with the dead body being thrown back into the sea. 6) Sharks grow slowly and take years to reproduce, which makes them vulnerable to overfishing. 7) The researchers estimated that global reported catches, unreported landings, discards and sharks caught and thrown back after their fins were cut off — a process known as finning — added up (a) 97 million fish caught in 2010. 8) The figure is only slightly less than the estimated 100 million caught in 2000.

4) サメはアジアの珍味であるフカヒレスープに使われるヒレのために捕獲される。 5) ヒレは切り取られ、死骸は海の中に投げ戻される。 6) サメの成長は遅く、生殖できるようになるには何年ものかかるので、そのことがサメを乱獲の被害を受けやすいものになっている。 7) 世界中で報告された捕獲数、報告されていない水揚げされた数、投棄された数、捕獲されヒレが切り取られた後に投げ戻されたサメの数——これはフィニングとして知られている処理だが——は2010年には合計9,700万に及んだと、研究者たちは推計した。 8) その数は2000年の推定1億を僅かに下回るものでしかない。

- 4) ・shark fin soup と a delicacy in Asia は同格。
- 5) ・with the dead body being thrown back into the sea は付帯状況の表現で、直前の内容に情報を追加している。
- 6) ・which makes them vulnerable to overfishing は非制限用法の関係詞節で、関係代名詞 which は直前の文内容を受けている。
- 7) ・global reported catches, unreported landings, discards and sharks caught and thrown back after their fins were cut off は、estimated の目的語となっている that 節中の主語であり、① global

- fin 「ヒレ」
- delicacy 「珍味」
- cut O off / cut off O 「Oを切り取る」
- reproduce 「繁殖する、生殖できる」
- estimate (that) ... 「…だと推定する」

reported catches, ② unreported landings, ③ discards ④ (and) sharks caught and thrown back after their fins were cut off と列挙されている。④については、過去分詞句 caught and thrown back が sharks を修飾し、副詞節 after their fins were cut off が thrown back を修飾している。

・ダッシュ(―)にはさまれた a process known as finning は、直前の caught and thrown back after their fins were cut off を付加的に説明している。

・added が that 節中の述語動詞。add up to A で「合計で A になる」という意味。

・空所(a)については、【設問別解説】参照。

8) ・The figure 「その数字」とは 97 million のこと。

・the estimated 100 million caught in 2000 は「2000年の推定漁獲数1億」という意味。

・caught in 2000 は the estimated 100 million を修飾する分詞句。

- reported 「報告された」
- catches 「漁獲高」
- unreported 「報告されていない」
- landing 「水揚げ、漁獲高」
- discard 「投棄」
- figure 「数字」
- slightly 「僅かに」

＜第3段落＞

9) It is estimated that between 6.4% and 7.9% of the world's sharks are killed each year, leading to a decline in the numbers of some

species. 10) Boris Worm, one of the report's authors, from Dalhousie University in Halifax, said: "Biologically, sharks simply can't keep up with the current rate of exploitation and demand."

11) Protective measures must be scaled up significantly in order to avoid a further decline and the possible extinction of many shark species."

9) 世界中のサメの6.4%から7.9%が毎年殺されていると推計されており、それはいくつかの種の個体数の減少につながっている。10) レポートの執筆者の1人である、ハリファックスにあるダルハウジー大学のボリス・ワーム氏は以下のように語った。「生物学的に言って、サメは乱獲と需要の現在のペースにどうしてもついていけないのです。

11) 多くの種のサメの数がこれ以上減ることと、起こり得る絶滅を回避するために、保護対策を大幅に拡充しなければなりません」

9) ・下線部(2)については、【設問別解説】参照。

10) ・Boris Worm と one of the report's authors は同格。

・下線部(3)については、【設問別解説】参照。

11) ・in order to avoid ... of many shark species は目的を表す副詞用法の不定詞句で、must be scaled up を修飾している。

- lead to A 「Aに通じる、つながる」
- decline 「低下、減少」
- author 「作者、執筆者」
- biologically 「生物学的に」
- keep up with A 「(遅れないように)Aについていく」
- current rate 「現在のペース」
- exploitation 「搾取作用、乱獲」
- demand 「需要」
- protective measures 「保護対策」
- scale O up / scale up O 「Oを拡大する」
- significantly 「著しく、大いに」
- avoid O 「Oを避ける」
- further 「一層の、さらなる」

＜第4段落＞

12) Although some regions, including the

12) 欧州連合を含むいくつかの地域がサメのフィ

European Union, have banned shark finning, commercial fisheries for fins, meat, liver oil, cartilage and other body parts are largely unregulated in much of the world. 13) Under the proposals for the CITES meeting, five types of shark would be listed as "Appendix II species", which would ensure that any international trade in them is sustainable and legal.	ニングを禁止したものの、ヒレ、肉、肝油、軟骨、その他の部位を求めて行われる商業漁業は、世界の多くの国々ではたいていの場合、規制は受けていない。 13) CITES 会議のための提案のもとでは、5 種類のサメが「附属書 II 種」として登録され、それはそれらを扱ういかなる国際取引も持続可能で合法的であることを保証するものとなるだろう。
--	---

- | | |
|---|---|
| <p>12) ・ including the European Union は some regions の具体例を示している。</p> <p>・ 主節の主語は commercial fisheries ... other body parts で、are (largely) unregulated が述語動詞。</p> <p>13) ・ which would ensure ... sustainable and legal は非制限用法の関係詞節で、関係代名詞 which は five types ... "Appendix II species" を受けている。</p> <p>・ "Appendix II species" とは、必ずしも絶滅の危機に瀕しているわけではないが、一定の保護を必要とすると CITES が定めた動物種のこと。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● region 「地域」 ● the European Union 「EU、欧州連合」 ● ban O 「O を禁止する」 ● commercial fishery 「商業漁業」 ● liver oil 「肝油」 ● unregulated 「規制されていない」 ● proposal 「提案」 ● appendix 「附属書」 ● ensure (that) ... 「…を保証する」 ● sustainable 「持続可能な」 ● legal 「合法的な」 |
|---|---|

＜第 5 段落＞

14) A previous attempt to have the trade in some species of shark monitored and regulated under the CITES treaty narrowly failed, but the conservation charity Pew Environment Group believes <u>(4) there is a great deal of momentum behind the latest bid.</u> 15) Elizabeth Wilson, Pew manager of global shark conservation, said the proposals had broad support across developed and developing countries and campaigners. 16) "We are now the predators. 17) Humans have mounted an unrelenting assault on sharks, and their numbers are crashing throughout the world's oceans," she said. 18) <u>(5) "A simple 'yes' vote to support their listing could turn things around for some of the world's most threatened shark species.</u> 19) Countries should seize this opportunity to protect these top predators (b) extinction."	14) 数種のサメの取引を CITES 条約のもとで監視し規制しようとする以前の試みは惜しくも小差で否決されたが、保護慈善団体の Pew 環境グループは今回のサメを保護する案には多くの支持があると信じている。 15) Pew の世界サメ保護部門のスタッフリーダーであるエリザベス・ウィルソンは、先進国及び発展途上国と運動家たちにも広くこの提案は支持を得ていると語った。 16) 「今や私たちの方がプレデターなのです。 17) 人間はこれまでサメたちに情け容赦ない攻撃を仕掛けてきたので、サメの数は世界の海洋全域で激減しているのです」と彼女は語った。 18) 「サメを登録することを支持するという『賛成』票を投じてくれさえすれば、世界で最も深刻な絶滅の危機に瀕しているサメの種のいくつかにとって、状況を好転させることができるのです。 19) この最上位のプレデターたちを絶滅から守るために、関係諸国はこの好機を逃してはならないのです」
--	--

- | | |
|--|--|
| <p>14) ・ to have ... the CITES treaty は、A previous attempt の内容を説明する不定詞句。</p> <p>・ have O <i>done</i> 「O が…される」の表現が用いられており、the trade in some species of shark が O、monitored and regulated under the CITES treaty が <i>done</i> に相当する。</p> <p>・ 下線部(4)については、【設問別解説】参照。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● previous 「以前の」 ● attempt 「試み」 ● monitor O 「O を監視する」 ● regulate O 「O を規制する」 ● treaty 「条約」 ● narrowly 「かろうじて、危うく」 |
|--|--|

- 15) ・Elizabeth Wilson と Pew manager of global shark conservation は同格。
- 16) ・predator は「捕食動物」(他の動物を食べて生きる動物)のこと。サメやオオカミはその代表的存在だが、ここではそのサメを乱獲して絶滅の危機に追い込んでいるのは人間なので、“We are now the predators.”と言っている。それに対して、第19)文の these top predators はサメのこと。
- 18) ・下線部(5)については、【設問別解説】参照。
- 19) ・空所(b)については、【設問別解説】参照。

- fail 「失敗する」
- conservation charity 「保護慈善団体」
- a great deal of A 「多くの A」
- momentum 「勢い、はずみ」
- the latest 「最新の、今度の」
- bid 「入札、企て」
- developed country 「先進国」
- developing country 「発展途上国」
- campaigner 「(社会・政治などの)運動家」
- mount O 「O を仕掛ける」
- assault 「攻撃」
- crash 「激減する」
- turn things around 「状況を逆転させる」
- seize O 「O をとらえる」
- opportunity 「好機」

＜第6段落＞

20) The CITES meeting is also considering protection for manta rays, which are being fished for their gill plates, sold in China as medicine and believed to cure a range of health complaints from asthma to chicken pox and even cancer.

21) The trade is (c) the increase, with Mozambique recording an 86% decline in sightings of the fish over the past eight years, but manta rays are very important for tourism and attract divers, who will pay a lot to see them.

20) CITES 会議はオニイトマキエイの保護も検討している。オニイトマキエイはそのエラを目当てに捕獲されているが、それは中国では薬として売られ、喘息から水ぼうそう、そして癌にいたるまでさまざまな病気を治すと信じられている。 21) オニイトマキエイの取引は増加しており、過去8年間でこの魚の目撃率は86%低下したとモザンビークは記録している。だが、オニイトマキエイは観光事業にとってとても重要でダイバーを惹きつけており、彼らはオニイトマキエイを見るために大金を払おうとするのだ。

- 20) ・ which are being fished ... and even cancer は非制限用法の関係詞節で、関係代名詞 which は manta rays を受けている。
- ・ sold in China ... and even cancer は their gill plates を説明する過去分詞句。
- 21) ・ 空所(c)については、【設問別解説】参照。
- ・ with Mozambique recording ... past eight years は付帯状況の表現で、直前の文内容に情報を追加している。
- ・ who will pay a lot to see them は非制限用法の関係詞節で、関係代名詞 who は divers を受けている。

- medicine 「薬」
- cure O 「O を治す」
- a range of A 「さまざまな A」
- complaint 「苦情、病気」
- cancer 「癌」
- Mozambique 「モザンビーク」(南東アフリカの国)
- sighting 「目撃」
- tourism 「観光事業」
- attract O 「O を惹きつける」
- diver 「ダイバー」

＜第7段落＞

22) The UK environment minister Richard Benyon said: “We want to see better protection

22) 英国の環境大臣、リチャード・ベニョンはこう語った。「我が国はサメがより手厚く保護される

for sharks and will be pushing for this strongly at CITES next week. 23) I am keen to see trade controls introduced for vulnerable and endangered species (d) porbeagle, hammerhead and oceanic whitetip sharks and manta rays.”

状況を目にしたいので、来週 CITES の会議でこのことを強く要求するつもりです。 23) 私個人としても、ニシネズミザメやシュモクザメやヨゴレザメやオニイトマキエイのように被害を受けやすく絶滅の危機に瀕している種のために、取引についての統制が導入されるのをなんとしても見たいのです」

22) ・ The UK environment minister と Richard Benyon は同格。

・ this は better protection for sharks の内容を指している。

23) ・ see trade controls introduced では see O done 「O が…されるのを見る」の表現が用いられており、trade controls が O, introduced が done に相当する。

・ 空所(d)については、【設問別解説】参照。

● the UK (United Kingdom) 「英国」

● environment minister 「環境大臣」

● push for A 「A を要求する」

● be keen to do 「なんとしても…したい」

● introduce O 「O を導入する」

【設問別解説】

問 1 下線部和訳問題 ★★★

下線部(1) Many species of shark need better protection to prevent their extinction within coming decades, researchers warned in advance of a global conference on the trade in threatened species. を和訳せよ。

【ポイント】

warned の目的語はどこにあるか？

訳出上のポイントは以下の通り。

〈前半〉 Many species of shark need better protection to prevent their extinction within coming decades

・ 主語は Many species of shark 「サメの多くの種」である。

・ 述語動詞は need 「O を必要とする」で、better protection 「より手厚い保護」が目的語。

・ to prevent their extinction 「絶滅を防ぐために」は目的を表す副詞用法の不定詞句で、need にかかるように訳せばよい。

・ within coming decades は their extinction を修飾する形容詞句で、「今後数十年以内の(それらの絶滅)」という意味。

以上より、この部分は「今後数十年以内の絶滅を防ぐため、サメの多くの種には、より手厚い保護が必要だ」ようになる。

〈後半〉 researchers warned in advance of a global conference on the trade in threatened species

・ researchers 「研究者たち」が主語。

・ 述語動詞は warned 「警告した」だが、後ろには目的語が見当たらず、in advance of a global conference on the trade in threatened species 「絶滅危機種取引に関する国際会議に先立って」という副詞句が続いている。in advance of は「(…に)先立って」、the trade in threatened species は「絶滅危機種の取引[売買]」という意味。とりあえず、後半を訳出すると「研究者たちは絶滅危機種取引に関する国際会議に先立って警告した」となる。では、何を警告したのか？ warned の目的語となるのは、前半の Many species of shark need better protection to prevent their extinction within coming decades であり、このことに気づけるかが、本問の最も大きなポイントである。

以上から、「今後数十年以内の絶滅を防ぐため、サメの多くの種には、より手厚い保護が必要だと、絶滅危機種取引に関する国際会議に先立って研究者たちは警告した」のように訳出できる。

▶ 以下に目的語となる節が文頭に出た、本問と同様の例を挙げておく。

【例】 Ten people were killed and fifty injured in the accident, a journalist in Baghdad reported from the scene.

(その事故で10人が死亡して50人が負傷したと、バグダッドのジャーナリストが現場から報じた)

【例】 Much of what we learn at school we forget in later life.

(学校で学ぶことの多くは、後の生活で忘れ

てしまう)

問2 下線部和訳問題 ★★☆☆

下線部(2) It is estimated that between 6.4% and 7.9% of the world's sharks are killed each year, leading to a decline in the numbers of some species. を和訳せよ。

【ポイント】

- ・ It is estimated that ...
- ・ 分詞句 leading to a decline ...

訳出上のポイントは以下の通り。

〈前半〉 It is estimated that between 6.4% and 7.9% of the world's sharks are killed each year

- ・ It is estimated that ... は形式主語の構文。「...だと推定されている」と訳せばよい。
- ・ 真正主語の that 節内の主語は between 6.4% and 7.9% of the world's sharks 「世界中のサメの 6.4% から 7.9%」で、are killed が動詞。
- ・ each year は are killed を修飾している。

以上から、前半の訳は「世界中のサメの 6.4% から 7.9% が毎年殺されていると推計されている」となる。

〈後半〉 leading to a decline in the numbers of some species

- ・ lead to A は「A につながる、(結果として)A になる」という意味。A にあたるのは a decline in the numbers of some species 「いくつかの(サメの)種の個体数の減少」。
- ・ lead が現在分詞 leading となり、前半の that 節の内容を意味上の主語とする分詞句を導いている。この分詞句は「それ(=世界中のサメの 6.4% から 7.9% が毎年殺されていること)はいくつかの(サメの)種の個体数の減少につながっている」と訳せばよい。

以上から、「世界中のサメの 6.4% から 7.9% が毎年殺されていると推計されており、それはいくつかの種の個体数の減少につながっている」のように訳出できる。

問3 下線部内容説明問題 ★★☆☆

下線部(3) Biologically, sharks simply can't keep up with the current rate of exploitation and demand. は、サメのどのような生物学的特徴に基づく発言か。本文に即して、句読点を含めて 30 字以内の日本語で述べよ。

【ポイント】

サメの生物学的特徴はどこに記されているか

下線部は「生物学的に言って、サメは乱獲と需要の現在のペースにどうしてもついていけない」という意味。「乱獲と需要」の結果、サメの数が少なくなっていることは第 9) 文からもわかる。そこで、生物学的にサメが個体数を減らしやすい理由を求めると、第 6) 文に Sharks grow slowly and take years to reproduce, which makes them vulnerable to overfishing. 「サメの成長は遅く、生殖できるようになるには何年もかかるので、そのことがサメを乱獲の被害を受けやすいものになっている」とある。サメの生物学的特徴について言及されているのは、この文の下線部だけ。したがって、この内容を 30 字以内で「成長が遅く、生殖できるようになるまでに年月がかかること。」(28 字) のように表せばよい。

問4 下線部意味選択問題 ★★☆☆

下線部(4) there is a great deal of momentum behind the latest bid は具体的にはどういう意味か。最も適当なものを、次の(ア)~(エ)の中から 1 つ選び、記号で答えよ。

- (ア) サメの捕獲数が 2000 年から 2010 年で減少傾向にあること。
- (イ) サメの捕獲数はサメの全個体数の 8% にも満たないこと。
- (ウ) 今ではサメよりも人間の方が捕食動物と言えること。
- (エ) 今回のサメを保護する案には多くの支持があること。

【ポイント】

- ・ a great deal of momentum とは？
- ・ the latest bid とは？

下線部の直前には「数種のサメの取引を CITES 条約のもとで監視し規制しようとする以前の試みは惜しくも小差で否決された」とあるが、この下線部は否決された a previous attempt に対して、the latest bid 「今回の(=近い将来に CITES 会議で投票される)案」のこと。つまり、the latest bid とはサメの保護を獲得するために現在試みられている提案のことなので、その背後に a great deal of momentum 「多くのはずみ、勢い」があるとなれば、サメを保護しようとする案には多くの支持があると考えられる。したがって、正解

は(e)。

▶下線部には momentum や the latest bid などが用いられていて、正確に文意を読みとることは難しいが、直後の文で、Pew のスタッフリーダーであるエリザベス・ウィルソンが「先進国及び発展途上国と運動家たちにもこの提案は広く支持を得ている」と語っていることから、下線部の意味内容を推測することは可能である。

問5 下線部意味選択問題 ★★☆☆

下線部(5) A simple 'yes' vote to support their listing could turn things around は具体的にはどのような意味か。最も適当なものを、次の(a)~(e)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (a) あまり考えずに「賛成」票を投じると物事を混乱させかねない。
- (i) ただ「賛成」票を投じることで進むべき方向の確認が可能になった。
- (u) 「賛成」票を投じてくれさえすれば状況は好転する可能性がある。
- (x) 「賛成」への単純な投票のせいで状況が逆戻りすることになった。

【ポイント】turn things around とは？

下線部を含む文は「サメを登録することを支持するという『賛成』票を投じてくれさえすれば、状況を好転させることができる」という意味なので、その内容に最も近い(u)を選べばよい。their listing とは、some of the world's most threatened shark species 「世界で最も深刻な絶滅の危機に瀕しているサメの種のいくつか」を保護対象として登録すること。turn things around とは「状況を好転させる」という意味。

▶下線部を含む文とその前後の文はサメ保護部門のスタッフリーダーの発言で、特に後続の第19)文では「この最上位のプレテーターたち(=サメ)を絶滅から守るために、関係諸国はこの好機を逃してはならない」と言っている。このことに目を向ければ、下線部はサメにとってプラスの内容であることが推測でき、そこから正解を導くこともできる。

問6 前置詞選択補充問題 ★☆☆☆

空所(a)~(d)に入れるのに最も適当なものを、下の語群からそれぞれ1語ずつ選んで書け。
at, for, from, in, like, on, to, with

【ポイント】様々な前置詞の用法

- (a) add up to A で「合計でAになる」という意味。正解は to。
- (b) protect O from A で「OをAから守る」という意味。正解は from。
- (c) on the increase で「増加中で」という意味。正解は on。
- (d) like A で「Aのような」という意味。正解は like。

問7 内容一致選択問題 ★★☆☆

本文の内容に一致するものを、次の(a)~(x)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (a) Sharks are in great demand because they are thought to cure cancer.
- (i) Up to now, there has been no regulation of any kind on shark fishing.
- (u) Human beings have killed so many sharks that we have endangered some species.
- (x) Manta rays are protected very well because they attract divers, who pay a lot.

- (a) 癌を治すと思われているので、サメは大きな必要がある。
- (i) 現在まで、サメ釣りに関するいかなる規制もなかった。
- (u) 人間はとてども多くのサメを殺してきたので、いくつかの種を危険にさらしてきた。
- (x) オニイトマキエイは大金を払ってくれるダイバーを魅了するので、手厚く保護されている。

【ポイント】各選択肢と関連のある部分をサーチする

正誤のポイントは次の通り。

(a)は第20)文に「オニイトマキエイが喘息から水ぼうそう、そして癌にいたるまでさまざまな病気を治すと信じられている」という記述があるが、サメとは無関係なので、一致しない。

(i)は第12)文に「欧州連合を含むいくつかの地域がサメのフィニングを禁止した」とあることと矛盾する。

(u)は第17)文に「人間はこれまでサメたちに情け容赦ない攻撃を仕掛けてきたので、サメの数は世界の海

洋全域で激減している」とあることに一致。

(エ)は because 以下の内容は第21)文に書かれているが、「オニイトマキエイは手厚く保護されている」と

いう記述はなく、同じく第21)文の「取引量が増え、モザンビークでの目撃率が低下している」という内容に明らかに矛盾する。

⑤ 長文総合問題

【解答】

問1 get to be so great at what they do

問2 ウ

問3 グランドマスターたちは、チェスを覚えて最初の10年の間にたいして5千時間もの膨大な時間——中級レベルのプレイヤーのほぼ5倍——を1人でのチェスの研究に費やしている。

問4 このようによく考えて慎重に練習しているときには、課題となる技能であれ知識であれ、ほんの少し手の届かないレベルのものを認識し、自分の出来を向上させようと努力し、自分の進歩を確認し、それに応じて修正している。

問5 ①極めて高い集中力が必要で、他人は集中の妨げになる場合があるから。(32字)

②深いレベルの動機付けが必要で、それはたいして自分で生み出すものだから。(35字)

③他人ではなく自分自身にとって一番やりがいのある課題に取り組めるから。(34字)

問6 (エ)

【配点】(60点)

問1 6点 問2 5点 問3 12点

問4 14点 問5 各6点×3 問6 5点

【テーマ】

どんな分野であれ、研鑽して自らを高めるために必要なのは、1人で訓練に取り組む時間だ。自分の足りないところと向き合い、それを克服するために地道に頑張るのはつらいことだが、抜き出た存在になるには、このことから逃げることはできない。本文では演奏家やチェスの名人の修練について語られているが、諸君の受験勉強にも通じるところがあるのではないだろうか。

【出典】Quiet: Susan Cain

【本文解説】

＜第1段落＞

1) When the research psychologist Anders Ericsson was fifteen, he took up chess. 2) He was pretty good at it, he thought, easily beating all his classmates in lunchtime matches, until one day a boy who'd been one of the worst players in the class started to win every match.

1) 心理学研究者アンドレス・エリクソンが15歳だったとき、彼はチェスを始めた。 2) 彼は自分がとても強いと思っていて、昼休みの対局ではクラスメートを片っ端から負かしていたが、ある日クラスで最も弱かった少年たちの中の1人が、対戦するたびに勝ち始めた。

2) ・he thought は、主節相当部分の挿入。

・easily beating ... lunchtime matches の部分は分詞構文。

・この文の until は、「…まで」という意味合いではなく、主節の出来事が起きた後にどうなったかを表している。この用法では、ふつう until の前にコンマが置かれ、..., until ~ の形で用いる。「…して、ついに～」 「…したが、(あるとき)～」 のように訳出する。

[例] The voice became fainter and fainter, until it disap-

● take O up / take up O 「O を始める」

● beat O 「O を負かす、O (対戦相手) に勝つ」

● win O 「O (試合など) に勝つ」

peared.

(その声はだんだんかすかなものになり、ついには聞こえなくなった)

＜第2段落＞

3) Ericsson wondered what had happened.
4) "I really thought about this a lot," he recalls in an interview with Daniel Coyle, author of *The Talent Code*. 5) "How could that boy, whom I had beaten so easily, now beat me just as easily?
6) I knew he was studying, going to a chess club, but what had happened, really, underneath?"

3) エリクソンは何が起きたのだろうと思った。
4) 「このことについては、本当に山ほど考えました」と、*The Talent Code*の著者ダニエル・コイルとのインタビューで彼は振り返る。5) 「どうしてあいつが、それまでは楽に勝っていたのに、同じくらい楽にはくのことを負かすようになったんだろう。6) 彼がチェスクラブに行って勉強していたのは知っていたけど、本当のところ、目に見えないところで何が起きていたんだろう」

4) ・ Daniel Coyle と author of *The Talent Code* は同格。

5) ・ How could ...? は、強い疑念を表す表現。

・ whom I had beaten so easily は、that boy を先行詞とする非制限用法の関係代名詞節。

・ as easily の後ろには、as I had beaten him が省略されていると考えられる。

6) ・ going to a chess club は分詞構文。

● recall O 「O を思い起こす」

● underneath 「隠れて、目に見えないところで」

＜第3段落＞

7) This is the question that drives Ericsson's career: How do extraordinary achievers ⁽¹⁾ [at / do / get / so great / they / to be / what]? 8) Ericsson has searched for answers in fields as diverse as chess, tennis, and classical piano.

7) この疑問こそが、エリクソンの研究人生の原動力となっている。人並み外れた成果をあげる人たちは、どうやって自分が活躍する場でそれほど目抜けた存在になるのだろうか。8) エリクソンは、チェス、テニス、クラシックピアノといった様々な分野で答えを求めてきた。

7) ・ the question that drives Ericsson's career をコロンの How do ...? で具体的に説明している。

・ 下線部(1)については、【設問別解説】参照。

8) ・ as diverse as ... は「…ほど多様な」という意味で用いられている。

● drive O 「O を推し進める、O の原動力となる」

● career 「一生の仕事」

● extraordinary 「並外れた」

● achiever 「何かを成し遂げた人」

● search for A 「A を探し求める」

● diverse 「多様な」

＜第4段落＞

9) ⁽²⁾ In a now-famous experiment, he and his colleagues compared three groups of expert violinists at the elite Music Academy in Berlin. 10) The researchers asked the professors to divide the students into three groups: the "best violinists," who had the potential for careers as international soloists; the "good violinists"; and a third group training to be violin teachers rather than performers. 11) Then they interviewed the musicians and asked them to keep detailed

9) 今では有名となった実験で、彼は共同研究者と共に最高レベルのベルリン音楽院でバイオリン専攻の学生を3つのグループに分けて比較した。10) 研究者たちは、国際的なソリストになる可能性を秘めた「最優秀のバイオリニスト」、「優秀なバイオリニスト」および、演奏家というよりもむしろ、バイオリン教師になる訓練をしている第3のグループという、3つのグループに学生を分けるようにこの学校の教授たちに依頼した。11) それから、彼らはこの学生たちに面接を行い、時間の使い方に

diaries of how they used their time.

関する詳細な日記を付けるように依頼した。

- 9) ・下線部(2)については、【設問別解説】参照。
- 10) ・ask O to do 「Oに…するよう求める」という形が用いられている。第11)文でも同様の形が用いられている。
- ・three groups の内容が、直後のコロンの後ろで具体的に述べられている。
- 11) ・how they used their time が前置詞 of の目的語となっている。they および their は the musicians を受けている。
- ・musician を日本語で「音楽家、ミュージシャン」と訳出すると、職業として音楽を生業としている人を表すことになるが、この文では音楽院の学生のことを指しているのので、「学生」と訳出しておいた。

- expert 「熟達した、専門の」
- elite 「えり抜きの、最高レベルの」
- divide O into A 「O を A に分ける」
- potential 「潜在能力」
- soloist 「ソロ奏者、ソリスト」
(日本語の「ソリスト」はフランス語の soliste に由来する)
- X rather than Y 「Y というよりもむしろ X」
- detailed 「詳細な」

〈第5段落〉

12) They found a striking difference among the groups. 13) All three groups spent the same amount of time — over fifty hours a week — participating in music-related activities. 14) All three had similar classroom requirements making demands on their time. 15) But the two best groups spent most of their music-related time practicing in solitude: 24.3 hours a week, or 3.5 hours a day, for the best group, compared with only 9.3 hours a week, or 1.3 hours a day, for the worst group. 16) The best violinists rated “practice alone” as the most important of all their music-related activities. 17) Elite musicians — even those who perform in groups — describe practice sessions with their chamber group as “leisure” in contrast to solo practice, where the real work gets done.

12) 彼らは、これらのグループ間に顕著な違いがあることに気づいた。 13) 3つのグループは、音楽に関する活動に参加するのに費やす時間は同じ——週に50時間を超える——だった。 14) 3つのグループはすべて、授業で課される時間の取られる必須課題は似たようなものを抱えていた。 15) しかし、優秀な方の2つのグループは、音楽関連の時間の大部分を個人練習に費やしていた。最も優秀なグループが週に24.3時間、つまり1日あたり3.5時間なのに、最も優秀でないグループは週にわずか9.3時間、つまり1日あたり1.3時間のみだった。 16) 最も優秀なバイオリニストたちは「個人練習」を音楽関連の活動の中で最も重要なものと評価していた。 17) 最高レベルの学生たちは——集団で演奏する人たちでさえ——自分が属している室内楽団と一緒に練習を、本当の練習が行われる場である個人練習とは対照的に、「余暇」と言い表していた。

- 13) ・spend O doing 「…するのにO(時間など)を費やす」という形が用いられており、Oにあたる the same amount of time を、ダッシュ(—)を用いて具体的に over fifty hours a week と説明している。
- 14) ・making demands on their time は、直前の classroom requirements を修飾する形容詞句。make demands on A は、「A(時間など)を必要とする」という意味。
- 15) ・24.3 hours a week, or 3.5 hours a day の部分の or は言いかえのために用いられている。only 9.3 hours a week, or 1.3 hours a day の部分も同様。
- 17) ・even those who perform in groups は、直前の Elite musicians に対する付加的な情報。
- ・describe O as C 「O を C だと述べる」の表現が使われていて、O

- striking 「著しい、顕著な」
- participate in A 「A に参加する」
- similar 「同じような」
- requirement 「要求されること、課題」
- in solitude 「一人で」
- compared with A 「A と比べると」
- rate O as C 「O を C だと評価する、O を C と見なす」
- describe O as C 「O を C だと述べる」
- in contrast to A 「A とは対照的

にあたるのが practice sessions with their chamber group で、C にあたるのが “leisure” である。leisure は「余暇」という意味だが、ここでは「気楽な練習」ということを言おうとして用いた表現。本来の意味とは異なるので、引用符 (“...”) を付けて用いている。

- ・ where 以下は、先行詞の solo practice を補足説明する関係副詞節。エリート音楽家たちは集団での練習を “leisure” と表現する一方で、solo practice を the real work gets done 「本当の練習が行われる(場)」と言っている。

に」

＜第6段落＞

18) Ericsson and his colleagues found similar effects of solitude when they studied other kinds of expert performers. 19) “Serious study alone” is the strongest predictor of skill for tournament-rated chess players, for example; ⁽³⁾ grandmasters typically spend an extraordinary five thousand hours — almost five times as many hours as intermediate-level players — studying the game by themselves during their first ten years of learning to play. 20) College students who tend to study alone learn more over time than those who work in groups. 21) Even elite athletes in team sports often spend unusual amounts of time in solitary practice.

18) エリクソンと共同研究者たちは、1人になることによる同様の効能を、他の分野の達人たちに関して研究しているときにも見出した。19) 「1人で真剣に研究していること」が、例えばトーナメントでランキングに入っているチェスプレーヤーの技量に対する、最も大きな予測要因である。グランドマスターたちは、チェスを覚えて最初の10年の間にたいして5千時間もの膨大な時間——中級レベルのプレーヤーのはば5倍——を1人でのチェスの研究に費やしている。20) 1人で勉強することの多い大学生は、ある程度の期間続けると、集団で勉強している学生よりも多くのことを学んでいる。21) チームスポーツですら、一流アスリートは個人練習に尋常ではない時間を費やしている。

- 19) ・ S is a predictor of A は、直訳すると「SはAの予測変数である」となる。Aを予測する要因として、Sが有効であることを言う。つまり、ここでは「1人で真剣に研究していること」が、チェスの技量に最も大きな影響を及ぼすということを言っている。
- ・ 下線部(3)については、【設問別解説】参照。
- 20) ・ who tend to study alone は、直前の College students を修飾する関係副詞節。

- effect 「結果、効能」
- predictor 「予測変数、予測する要因」
- typically 「多くの場合、概して」
- intermediate 「中級の」
- tend to do 「…する傾向がある」

＜第7段落＞

22) What's so magical about solitude? 23) In many fields, Ericsson told me, it's only when you're alone that you can engage in Deliberate Practice, which he has identified as the key to exceptional achievement. 24) ⁽⁴⁾ When you practice thoughtfully and carefully in this way, you identify the tasks or knowledge that are just out of your reach, strive to upgrade your performance, monitor your progress, and revise accordingly. 25) Practice sessions that fall short of this standard are not only less useful — they're counterproductive. 26) They reinforce existing cognitive mechanisms instead of improving them.

22) 1人になることの何がそれほど不思議な力を持っているのだろうか。23) エリクソンが話してくれたのだが、多くの分野において図抜けた業績の鍵だと彼が考えている集中的訓練に取り組むことができるのは、1人でいるときだけなのだという。24) このようによく考えて慎重に練習しているときには、課題となる技能であれ知識であれ、ほんの少し手の届かないレベルのものを認識し、自分の出来を向上させようと努力し、自分の進歩を確認し、それに応じて修正している。25) この基準に満たない練習は、役に立つ程度が低くなるだけではない——逆効果なのだ。26) そのような練習は、現時点で身につけている認知のしくみを改善するのでは

- 23) ・ it's only when you're alone that ... は、only when you're alone を強調している強調構文。
 ・ which he has identified as ... は、Deliberate Practice を先行詞とする非制限用法の関係代名詞節。
- 24) ・ 下線部(4)については、【設問別解説】参照。
- 25) ・ that fall short of this standard は、Practice sessions を先行詞とする関係代名詞節。
- 26) ・ この文は、第25)文の they're counterproductive を具体的に説明したもの。ここでの cognitive mechanisms とは、自らのパフォーマンスを認知・評価するしくみのことで、それを reinforce O 「O を強化する」というのは、未熟な認知・評価のしくみが定着してしまっ、向上させることが難しくなってしまう恐れがあるということを行っている。

- magical 「魔法のような」
- engage in A 「A に従事する、A に関わる」
- identify O as C 「O を C だと認定する」
- exceptional 「例外的な、並外れた」
- monitor O 「O を監視する、観察する」
- revise O 「O を修正する」
- accordingly 「それに応じて」
- fall short of A 「A に達していない」
- counterproductive 「逆効果の」
- reinforce O 「O を強化する」(心理学用語で、特定の行動などを定着させること)
- existing 「すでに存在している」
- cognitive 「認知の」

＜第8段落＞

27) ⁽⁵⁾ Deliberate Practice is best conducted alone for several reasons. 28) It takes intense concentration, and other people can be distracting. 29) It requires deep motivation, often self-generated. 30) But most important, it involves working on the task that's most challenging to you personally. 31) Only when you're alone, Ericsson told me, can you "go directly to the part that's challenging to you. 32) If you want to improve what you're doing, you have to be the one who generates the move. 33) Imagine a group class — ⁽⁶⁾you're the one generating the move only a small percentage of the time."

27) 集中的訓練は1人でするのが一番なのは、いくつかの理由による。 28) 集中的訓練はものすごい集中力が必要で、他人は集中の妨げになることがある。 29) 深いレベルの動機付けが必要で、多くの場合は自分で生み出すものだ。 30) しかし、何と言っても一番重要なのは、「あなた」個人にとって最もやりがいがあり、難しい作業に取り組めるということだ。 31) エリクソンが教えてくれたが、1人でいるときしか自分にとって難しくてもやりがいのある部分に直接取りかかれないのだ。 32) もしも自分が今していることがもっとうまくいきたいのなら、「あなた」が動き始めなければならないのだ。 33) 集団授業を思い浮かべてみてほしい。あなたから動き始めるのは、ごくわずかな割合でしかない。

- 27) ・ 下線部(5)については、【設問別解説】参照。
- 29) ・ often self-generated は、直前の deep motivation に関して補足説明をしている形容詞句。
- 30) ・ most important は文頭に置かれ、「最も重要なことは」という意味で用いられている。
 ・ that's most challenging to you personally は、the task を先行詞とする関係代名詞節。
 ・ you がイタリック体になっているのは、「他の人ではなく、まさにあなたが」という意味合いで you を強調する意図を表している

- conduct O 「O を行う」
- intense 「強い、激しい」
- concentration 「集中」
- distracting 「気を散らすような」
- motivation 「動機付け」
- self-generated 「自分の中から発せられる」
- involve doing 「…することを必然的に含む」

る。第32)文の you も同じ。

- 31) ・ Only when you're alone が文頭に置かれているので、主節である can you "go ..." の部分が倒置形になっている。
・ Ericsson told me の部分は、主節相当部分の挿入。
- 32) ・ what you're doing は「あなたが今していること」という意味だが、ここでは「今うまくなろうとしていること」を表している。
・ who generates the move は the one を先行詞とする関係代名詞節。
- 33) ・ 下線部(6)については、【設問別解説】参照。

- work on A 「Aに取り組む」
- challenging 「やりがいのある、難しい」
- generate O 「Oを生み出す」

【設問別解説】

問1 語句整序問題 ★★☆☆

下線部(1) [at / do / get / so great / they / to be / what] の [] 内の語句を並べ換えて、文脈に合った英文を完成せよ。

- 【ポイント】
- ・ get to do
 - ・ be great at A

まず、ここまでの話の流れから、下線部分がどういう意味になるかを推測しておく。第1段落と第2段落にはチェスの技能が突然向上した友人の例が示され、下線部を含む第7)文の This is the question that drives Ericsson's career から、その理由を知りたいと思ったことが、エリクソンの現在の研究に結びついているということがわかる。このことと、下線の前に How do extraordinary achievers とあることから、extraordinary achievers 「尋常ではない業績を上げた人たち」が、どのようにしてそうなったかと問うている文ではないかと予想できる。疑問文の形式になっているので、How do extraordinary achievers に続くのは原形動詞だが、get to do 「…するようになる」の表現を用いて get to be so great at ... 「…がそれほど素晴らしくできるようになる」とする。at 以下にはここまですべて使用されていない語句を組み合わせて what they do 「自分たちのすること」として置けば、How do extraordinary achievers get to be so great at what they do? 「尋常ではない業績を上げた人たちは、自分がやっていることを、どのようにしたらこれほど素晴らしくできるようになるのか」となり、文脈に沿った意味を持ち、かつ構造的にも正しい英文が完成する。したがって、get to be so great at what they do とするのが正解。

問2 内容一致選択問題 ★☆☆

下線部(2) In a now-famous experiment, he and his colleagues compared three groups of expert violinists at the elite Music Academy in Berlin. で述べられている実験に関して、本文の内容に一致するものを、次の(ア)~(エ)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (ア) 実験者たちはベルリン音楽院の教授たちを、それぞれの能力に応じて3つのグループに分類した。
- (イ) 「最も優秀なバイオリニスト」に分類された者たちは、いずれ音楽教師になることが見込まれていた。
- (ウ) 3つのグループの間で、音楽関連の活動に費やす時間そのものには大きな違いが見られなかった。
- (エ) 「最も優秀なバイオリニスト」のグループは他の2つのグループよりも、1週間あたり24時間近く音楽関連の活動に充てる時間が長かった。

【ポイント】

実験に関して本文に書かれている情報を正確に読み取る

まず、下線部の意味を確認しておこう。下線部を訳すと「今では有名となった実験で、彼は共同研究者と共に最高レベルのベルリン音楽院でバイオリン専攻の学生を3つのグループに分けて比較した」となる。now-famous は、now と famous の2語をハイフンで結び、後ろの experiment を修飾する形容詞として用いている形で、「今では有名となった」という意味。colleagues は「同僚」という意味だが、ここではエリクソンと共にこの実験を行った共同研究者のこと。

この実験に関して、第4段落の残りの部分では、どのように実験を行ったのかという「手順」が述べられており、第5段落では実験によって判明したこと、すなわち「結果」が述べられている。よって、それぞれの選択肢と、第4～5段落に書かれていることを照らし合わせればよい。

正解は(ウ)である。第13)文に、3つのグループすべてが音楽関連の活動に費やす時間がほぼ同じであると述べられており、この文の内容と(ウ)の内容が一致している。

▷(ア)は第10)文の内容と矛盾する。この実験では教授たちが学生を分類したのであり、教授を分類したわけではない。

▷(イ)も第10)文と矛盾する。音楽教師になることが見込まれていたのは第3のグループ、すなわち演奏者としては最も優秀でないグループである。

▷(エ)は第13)文と矛盾する。音楽関連に充てる時間の総量はすべてのグループで同じだったのである。

問3 下線部和訳問題 ★★★

下線部(3) grandmasters typically spend an extraordinary five thousand hours — almost five times as many hours as intermediate-level players — studying the game by themselves during their first ten years of learning to play. を和訳せよ。

【ポイント】

- spend O doing
- X times as ... as

まず、文全体の構造を確認しておく。grandmasters が主語で、述語動詞 spend を副詞 typically が修飾している。この spend は、spend O doing 「…するのに O(の時間)を費やす」という形で用いられており、O に当たるのが an extraordinary five thousand hours — almost five times as many hours as intermediate-level players で、doing に当たるのが、studying the game ... である。O と doing の部分に関しては以下で検討することにして、それを除いた部分の訳を示しておく、「グランドマスターたちは、たいてい…するのに O を費やしている」となる。

O の部分、an extraordinary five thousand hours — almost five times as many hours as intermediate-level players — は、2つの名詞句がダッシュで結ばれ、同格的な関係になっている。つまり、「5千時間

というとても長い時間」を「中級レベルのプレーヤーのほぼ5倍」と言いかえて説明を付け足しているのである。almost five times as ... as の部分に見られる倍数表現に関しては、以下の **file** を参照のこと。

日本語には本来ダッシュという記号はないので、「5千時間というとても長い時間、つまり中級レベルのプレーヤーのほぼ5倍にあたる時間」のように訳出することもできるが、「5千時間というとても長い時間——中級レベルのプレーヤーのほぼ5倍(にあたる)」のように訳文にダッシュを用いてもさしつかえない。

studying 以下を見てみると、studying the game の the game はこの文脈ではもちろんチェスのことであるので「このゲーム」や「チェス」と訳出できる。by themselves は「自分だけで、1人で」という意味。during their first ten years of learning to play は「このゲームを学んだ最初の10年の間に」となる。by themselves も during 以下も、共に studying the game を修飾する副詞句として用いられている。

以上より、下線部全体は「グランドマスターたちは、チェスを覚えて最初の10年の間にたいてい5千時間もの膨大な時間——中級レベルのプレーヤーのほぼ5倍——を1人でのチェスの研究に費やしている」となる。

file 倍数表現

倍数表現「AのX倍の…」は、一般に〈X times as + 原級(形容詞 / 副詞) + as A〉の形で表す。その場合、倍数は次のように表す。

1. 「3倍」以上は〈数詞 + times〉を使い、「2倍」は twice, 「半分」は half を使う。
2. 「～分の…」には、分数表現 ($1/3 = a \text{ third}$, $2/3 = \text{two-thirds}$ など) を用いる。

【例】 This room is *three times* [*twice / half / a third*] *as large as* mine.

(この部屋は私の部屋の3倍 [2倍 / 半分 / 3分の1] の大きさだ)

▶なお、数量を表す many / much などが形容詞として用いられる場合には、〈X times as + many [much] + 名詞 + as A〉の形で表す。

【例】 He has *three times as many* CDs *as* I do.
(彼は私の3倍もCDを持っている)

問4 下線部和訳問題 ★★★

下線部(4) When you practice thoughtfully and carefully in this way, you identify the tasks or knowledge that are just out of your reach, strive to upgrade your performance, monitor your progress, and revise accordingly. を和訳せよ。

【ポイント】
andの作る共通関係を正しく認識する

When から in this way までが文頭の副詞節になっていて、この部分は「このようによく考えて慎重に練習しているときには」と訳出すればよい。

主節は you が主語だが、述部が少々長くなっている。① identify the tasks ... と ② strive to ... と ③ monitor your progress と ④ revise accordingly という4つの現在形の述語動詞を中心とした述部が and を用いて並べられている。この構造をきちんととらえずに、それぞれの動詞の文中での働きをいい加減に訳してはいけない。個々の述部に関しては後で検討することにして、文全体の構造を訳出しておく、「このようによく考えて慎重に練習しているときには、(あなたは)①…し、②…し、③…し、(そして)④…している」となる。それぞれの箇所を和訳していけば正しい訳が得られる。

まず①の部分を検討すると、identify the tasks or knowledge that are just out of your reach は、他動詞 identify の目的語 the tasks or knowledge を、関係代名詞 that 以下が形容詞節として修飾している。identify O は「O(か何であるのか)を特定する、認識する」という意味合い。just out of your reach は、文字通りには「ちょうど、あなたの手が届く範囲の外」という意味だが、文脈に照らし合わせれば「現在ではできないが、練習・研究によって得られそうな技能や知識」というニュアンスであることがわかるだろう。よって、①の部分は、「課題となる技能であれ知識であれ、ほんの少し手の届かないレベルのものを認識する」のように訳出できる。tasks は、「自らに課された、取り組むべきこと」という意味で用いられており、「タスク」と訳出しても、「課題」「実技・技能」と訳出してもよい。

次に②の部分を検討すると、strive to do は「…するように努力する」、upgrade your performance は「自分のパフォーマンス(=出来映え)を改善する」という意味なので、「自分の出来を向上させようと努力

する」のように訳出できる。

③の monitor your progress は「自分の進歩を確認する」と訳出できる。自分が進歩しているかどうか、しているとすればどこがどのくらい進歩しているのかをモニターする、という意味合い。

④の revise accordingly は「それにしたがって修正する」とすればよい。accordingly は③でモニターした結果に応じて、というニュアンス。

これらのポイントを加えて全体を訳出すると、「このようによく考えて慎重に練習しているときには、課題となる技能であれ知識であれ、ほんの少し手の届かないレベルのものを認識し、自分の出来を向上させようと努力し、自分の進歩を確認し、それにに応じて修正している」ようになる。

問5 下線部内容説明問題 ★★☆☆

下線部(5) Deliberate Practice is best conducted alone for several reasons. に関して、本文で述べられている理由を3つ、句読点を含めてそれぞれ35字以内の日本語で説明せよ。

【ポイント】
設問の条件から本文の該当箇所を見抜く

下線部は「集中的訓練は1人で行うのが一番なのは、いくつかの理由による」という意味。for several reasons の reasons に定冠詞 the などがついていないことから、すでに述べられた理由をここでまとめているのではなく、いくつかの理由をこの後で述べるものと判断できる。

1人で行うと有利な点を記述している箇所を探しながら読み進めていくと、後に続く It takes intense concentration, and other people can be distracting: 「集中的訓練はものすごい集中力が必要で、他人は集中の妨げになることがある」、It requires deep motivation, often self-generated. 「深いレベルの動機付けが必要で、多くの場合は自分で生み出すものだ」、さらに it involves working on the task that's most challenging to you personally. 「『あなた』個人にとって最もやりがいがあり、難しい作業に取り組めるとのことだ」とあり、この3点はいずれも1人で行うことの利点である。したがって、これらの箇所をそれぞれ制限字数内にまとめればよい。

▷第31)・32)文も1人で行うことの利点に関わる内容なので、これらの内容を挙げることも考えられる。ただし、これらは3つの中で最も重要な理由を述べ

ている第30)文を補足する内容となっている。つまり、第30)文から第32)文までで1つの利点になっている。よって、第31)文や第32)文の内容を第30)文の内容に加えて、別の独立した利点として挙げることはできないことに注意。

問6 下線部内容選択問題 ★★☆☆

下線部(6) you're the one generating the move only a small percentage of the time の意味に最も近いものを、次の(㍿)~(㍻)の中から1つ選び、記号で答えよ。

- (㍿) you can initiate actions whenever you want to
- (㍺) people in the group can seldom talk as they like
- (㍻) nobody but you is responsible for the group you belong to
- (㍼) **most of the time one has to do what others choose to do**
- (㍽)好きなときにいつでも行動を起こすことができる
- (㍾) 集団の中にいる人たちが、自分たちの好きなように話すことはめったにない
- (㍿) あなたが属している集団に対して、あなた以外の誰も責任はない
- (㍻) **たいていの場合、他人が選んだことをしなければならない**

【ポイント】 集団で練習する場合の問題点は何か？

ここまで本文で、様々な分野で卓越した技量を身につけるためには1人で訓練することが重要であるということを述べてきた。さらに、下線部を含む第33)文の直前でIf you want to improve what you're doing, you have to be the one who generates the move. と言っているのは、単に1人でいるだけではなく「自分が主体となって動き出さなければならない」という趣旨だ。

そこで、下線部を見てみると、you're the one generating the move「あなたが動きを生み出している人物である」＝「自分が主体となって動いている」のは、only a small percentage of the time「ほんのわずかな割合でしかない」＝「めったにない」となっている。つまり、集団の練習では「自分が主体である」という望ましい状況であることが「めったにな

い」と言っている。逆から言えば、「たいていは自分ではなく、他人が主体となっている」という問題点が指摘されていることになる。

この内容と一致するのは(㍼)である。most of the timeは「たいていの場合」という意味。one has to do what others choose to do「他人が選んだことをしなければならない」というのは、まさに自分が主体になっていない状態で、この選択肢が下線部の意味を最も適切に反映していることになる。

⑥ 英作文

A 整序英作文

【解答】

1. *She was walking barefoot down the boardwalk (with her hair blowing in the) wind.*
2. *Mary (was taken in by his apparent kindness).*
3. *It is important to (make sure that the risks don't outweigh the benefits).*
4. *(Failure to obey the law can lead to a large fine).*

【配点】(16点)

各4点×4

【解説】

1. ★☆☆

【ポイント】

付帯状況の with

「彼女は髪を風にびかせて」は、with+A(名詞)+doing「Aが…する状態で」を用いて with her hair blowing in the wind と表現でき、She was walking barefoot down the boardwalk with her hair blowing in the wind. という正しい語順が得られる。

▶付帯状況の with に関しては、以下の **file** 参照。

file 付帯状況の with

with には、後続に名詞（前置詞 with の目的語 A）が来て、さらにその後に以下の1)～5)に示すような表現が来た場合、「A が…した状態で / して / しながら」という意味の付帯状況を表す用法がある。名詞とその後に来る要素との間には、意味上、主語と述語の関係があることに注意。

1) with+A+形容詞

【例】Don't speak **with** your mouth **full**.

(口一杯に食べ物をはおぼってものを言うな)

2) with+A+doing(現在分詞)

【例】I can't work **with** you **standing** there.

(君がそこに立っているのは仕事ができないよ)

3) with+A+done(過去分詞)

【例】She began to work **with** her sleeves **rolled up**.

(彼女は腕まくりして仕事にとりかかった)

4) with+A+副詞

【例】They stood there **with** their hats **off**.

(彼らは帽子を取ってそこに立っていた)

5) with+A+前置詞句

【例】He spoke **with** a pipe **in his mouth**.

(彼はパイプをくわえて話した)

2. ★☆☆

【ポイント】

句動詞の受動態

「メアリーは…にだまされた」は、be taken in by A「Aによってだまされる」を用いて、Mary was taken in by ... と表現する。「彼の見せかけの親切心」は、apparentに「(実はそうでないかもしれないが) 見たところ…、一見…らしい」の意味があることから、his apparent kindness と表現する。以上から、Mary was taken in by his apparent kindness. という正しい語順が得られる。

▶句動詞の受動態については、以下の **file** 参照。

file 句動詞の受動態

2語あるいは3語からなる句動詞は、全体で1つの他動詞のように扱って受動態にする。

【例】Everybody **laughed at** him.

→He **was laughed at** by everybody.

(彼は皆に笑われた)

【例】All the students **look up to** the teacher.

→The teacher **is looked up to** by all the students.

(その先生はすべての生徒に尊敬されている)

3. ★☆☆

【ポイント】

・make sure that ...

・outweigh O

「(上回らない)よう止めておく」は、「必ず(上回る

ない)ようにする」と考え、make sure that ...「必ず…するようにする」を用いて表現する。「リスクが利益を上回らない」は、S outweigh O「Sが(価値・重要性などで) Oにまさる」を用いて、the risks don't outweigh the benefits とする。以上から、It is important to make sure that the risks don't outweigh the benefits. という正しい語順が得られる。

▶ It は形式主語であり、to make sure 以下の真主語を受けている。

4. ★★★

【ポイント】

- ・ failure to do
- ・ lead to A

まず、can lead が述語動詞であることは明らかなので、S lead to A「SはAにつながる、もたらす」を用いて「その法律に従わないことが重い罰金につながる可能性があります」と考える。「その法律に従わないこと」は、failure to do「…しないこと」と obey O「Oに従う」を用いて、Failure to obey the law と表現する。「重い罰金」は、a large fine で表す。以上から、Failure to obey the law can lead to a large

fine. という正しい語順が得られる。

▶ fine「罰金」の「多い/少ない」は large / small で表すことに注意。

【例】 He paid a small fine for a traffic offense.
(彼は交通違反に対して少額の罰金を支払った)

詳しくは以下の **file** 参照。

file 「多い/少ない」を large / small で表現する名詞

population「人口」/ audience「聴衆」/ number「数」/ amount「量」/ quantity「量」/ sum「金額」/ income「収入」/ salary「給料」/ fine「罰金」など

【例1】 The *number* of girls is **larger** than that of boys in this class.

(このクラスは男子よりも女子の方が多い)

【例2】 My *income* is **smaller** than my sister's.

(私は妹よりも収入が少ない)

B 条件英作文

【解答例】

1. *Just because* (you got a perfect score on a test yesterday, it doesn't mean) *that you don't have to study today.*
2. *Ms. Smith is such* (a kind person that she drew a map showing the way to the nearest station).

【配点】(14点)

1. 7点 2. 7点

【解説】

1. ★★★

【ポイント】

- ・「…だからといって～ない」の表現
- ・「満点を取る」の表現

・「…だからといって～ない」は Just because ..., it doesn't mean that ~. の形で表すことができる。it は Just because 以下の内容を表し、that で置き換えることもできる。that 節は mean の目的語になっている。また、Just because ..., it doesn't fol-

low that ~. としてもよいが、ここでの follow は「結果として～になる」の意味の自動詞であり、it は that 以下の内容を受けている。この場合は it を that に置き換えることはできない。

▶ 副詞節である Just because ... を主語のようにみなして、Just because you got a perfect score on a test yesterday doesn't mean that ~. とするのは非標準的とされることもあるが、現在では一般的に用いられている形なので可とする。

・「満点を取れた」は got a perfect score / got full marks などとする。可能の意味を明示的に訳す必要はないが、訳すなら were able to get ... / managed to get ... などとする。

▷ 可能の意味を明示的に訳す場合, could get ... とし
てはならないことに注意。一般に, could get ... を
過去の文で用いると「(取ろうと思えば)取れる能力
があった」という過去の能力を示すことになり, 過
去の出来事として実際に取れたことを表さない。

・「テストで(満点を取る)」は on [in] a [the] test /
on [in] an [the] examination [exam] などとする。

2. ★★☆☆

【ポイント】
・「とても親切な人なので…」の表現
・「地図を描く」の表現

・「スミスさんはとても親切な人なので…」は, 書き
出しの条件から <such a + 形容詞 + 名詞 + that ...>
の表現を用いて Ms. Smith is such a kind [nice]

person that ... とする。

・「地図を描く」は draw a map で表す。絵や図形を
線で描く場合は draw を用いる。文章を書く場合に
は write, 絵などを絵の具やペンキで彩色して描く
場合には paint を用いるのと区別することに注意。

・「最寄り駅までの(地図)」は「一番近い駅までの道
順を示す(地図)」ということなので, (a map)
showing the way to the nearest station とすれば
よい。また (a map) of how to get to the nearest
station のようにも書ける。「最寄り駅」は the
closest station としてもよい。

▷ (a map) of how to ... のように書いた場合, 後続の
動詞に go を用いないことに注意。目的地までの道
順を尋ねる場合は「どうしたらそこに到着できるの
か」が意識されるので, 動詞は get を用いる。

C 本格英作文

【解答例】

(1) The first problem you face when you start to live abroad is being unable to understand what others are saying.

【別解】 One of the first problems you encounter when you begin to live in a foreign country is that you cannot catch what other people are saying.

(2) At parties, you laugh at jokes you don't understand, because all the people around you are laughing.

【別解】 When attending a party, even though you don't understand a joke, you laugh at it anyway, influenced by the people around you.

【配点】 (15点)

(1) 8点 (2) 7点

【解説】

(1) ★★☆☆

【ポイント】
「相手の話が聞き取れない」をどのように表現す
るか?

● 「外国に暮らすようになってまず直面する問題は」

・「外国に暮らすようになる」の部分の主語は一般
人称の you を用いるのがよい。「外国に暮らす」は
live abroad [overseas] / live in a foreign country
[another country] と表現する。abroad / overseas
は副詞なので (×) in abroad / in overseas としない
ことに注意。「(暮らす)ようになる」を (×) come
to live ... とすると「外国で暮らすためにやってく

る」という意味に解釈されるので不可。learn to
do は練習・経験などによって特定の行為ができる
ようになることを意味するので (×) learn to live
abroad も文脈に合わず不可。ここでは「外国に暮
らし始める」と解釈して start [begin] to live [liv-
ing] abroad などとするとよい。

・「(…暮らすようになって)」という接続は「暮らし
始めたときに」と解釈して when を用いるのが好ま
しい。

・「まず直面する問題」は「直面する最初の問題」と
いう意味の the first problem you face がもっとも
自然。「問題」の訳語は害をもたらしているもの
には problem が, 論争点や個人的な問題には issue
が, 事件や事柄を意味するには matter が好まれ
る。そのため, この文脈では problem / issue を使
うのがよい。「直面する」は face を使うのがよい

が、faceを「(問題)に直面する」という用法で用いるならば the first problem (that) you face という表現に、「(人)を(問題)に直面させる」という用法で用いるならば the first problem (that) you are faced with という表現にする。両者を混同して (×)you face with とはしないこと。「O(人)に直面する」という意味の face を用いるなら、the first problem that faces you / the first problem facing you のような表現も可。また、encounter を用いる場合は the first problem (that) you encounter とする。この部分を「最初に持つ問題」と解釈して the first problem (that) you have とするの也可。

●「相手の話が聞き取れないことだ」

- ・「A が聞き取れないことだ」は the first problem の述部になる部分なので動名詞を用いて ... is being unable to understand A としたり、節を用いて ... is that you cannot catch A のように書くことができる。「聞き取る」は understand / catch を使うとよい。(×)hear / listen to は不可。hear は本来「音が聞こえる」という意味、listen to は「注意して聞く」という意味であり、そうした行為ができないという文脈ではない。
- ・「相手の話」の「相手」は others / (other) people で表す。(×)your opponent は争いの「相手」を表すので不可。「相手の話」は、what others are saying などとする。ここではある時点での発話内容が聞き取れないという意味なので現在進行形がもっとも適切である。なお、「話」を逐語的に訳して (×)others' stories としてはならない。例えば I can't understand his story. は「彼の(言葉は理解できるが)話している内容が私の理解できる範囲を超えている」ということで、「話が聞きとれない」という意味にはならない。また、(×)catch one's story という表現はない。

(2) ★★★

◆【ポイント】◆
「周りにつられて笑ってしまう」をどのように表現するか？

●「パーティーの席では」

- ・「パーティーの席では」は「パーティーに出席しているときに」という意味なので、(when you are) attending a party [parties] / when you attend a party / (when you are) at a party などと表すことができる。「パーティー」は単数形でも複数形でもよい。

●「わからない冗談に、周りにつられて笑ってしまう」

- ・「わからない冗談に…笑ってしまう」は関係詞を用いて you laugh at a joke (which) you don't understand と書くことができる。「わからないのに冗談で笑ってしまう」と読み替えて you laugh at jokes (even) though you don't understand them のように表現することもできる。「わからないのに冗談に対して笑わざるを得ない」と考えて、(×)you can't help laughing at a joke though you don't understand it のようにするのは誤り。cannot help laughing は、笑わないでいようと思っても笑いを禁じ得ない場合などに用いる表現で、ここでは不適。
- ・「周りにつられて」は「周りの人々が笑っているの」と考えて because (all) the people around you are laughing などとするか、「周りの人に影響されて」と読み替えて influenced by the people around you とすれば、日本文の意味を伝えることができる。

【全訳例】

(1) The first problem you face when you start to live abroad is being unable to understand what others are saying. And because whenever someone says something you always have to ask them to repeat it, you feel guilty, so you end up giving them vague answers instead.
(2) At parties, you laugh at jokes you don't understand, because all the people around you are laughing. The miserable feeling this arouses will never be understood by anyone who hasn't experienced it.

受験直後の復習が大きな差を生む!!

自己採点シート

第3回 全統記述模試

クラス	番号	氏名

[シートの使い方]

- ①問題冊子と「学習の手引き」にしたがって自己採点してみましょう。
 ②満点に対してどれだけ得点できたかを設問ごとに比較し、「特に克服・補強すべき」と思う分野の☆に色を塗りましょう。
 ③色を塗った☆の設問番号を中心に具体的な補強策を考え「今後の課題と学習プラン」の欄に記入しましょう。
 →さらに個人成績表の返却後、統計集についている「見直しシート」を活用して、復習を万全にしましょう!!

総合計(第3回全統記述模試)

自己採点

実際の得点

成績表の返却後、得点を記入しましょう。

教科・科目	設問ごとの得点							合計	今後の課題と学習プラン	第3回全統記述模試 得点
	1	2	3	4	5	6	7			
英語	リスニング	/15 ☆	中文空所補充 /15 ☆	文法・語法 /20 ☆	長文総合問題 /60 ☆	長文総合問題 /60 ☆	英作文 /45 ☆			/200
	小問集合	2次関数 /60 ☆	確率 /40 ☆					/200		/200
数学Ⅰ型	小問集合	微積分融合 /50 ☆	図形と方程式 /40 ☆	確率 /40 ☆		空間ベクトル /100		/100		/100
	小問集合	確率 /50 ☆	空間ベクトル /50 ☆	微分法 /50 ☆	三角関数 /50 ☆	微積分融合 /50 ☆	行列 /40 ☆	/200		/200
数学Ⅱ型	現代文	現代文 /40 ☆	古文 /40 ☆	漢文 /40 ☆	現代文 /40 ☆	現代文 /40 ☆	現代文 /40 ☆	/200		/200
	現代文	現代文 /60 ☆	古文 /40 ☆	漢文 /40 ☆	現代文 /50 ☆	現代文 /50 ☆	現代文 /40 ☆	/150		/150
現・古・漢型 現・古・漢型	力学	電磁気 /60 ☆	波動 /40 ☆	波動 /50 ☆	波動 /50 ☆	波動 /50 ☆	波動 /50 ☆	/200		/200
	物理	力学 /33 ☆	電磁気 /34 ☆	波動 /33 ☆	波動 /33 ☆	波動 /33 ☆	波動 /33 ☆	/100		/100

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にしておきましょう。

受験直後の復習が大きな差を生む!!

【シートの使い方】

- ①問題冊子と「学習の手引き」にしたがって自己採点してみよう。
- ②満点に対してどれだけ得点できたかを設問ごとに比較し、「特に克服・補強すべき」と思う分野の☆に色を塗りましょう。
- ③色を塗った☆の設問番号を中心に具体的な補強策を考え「今後の課題と学習プラン」の欄に記入しましょう。
- さらに個人成績表の返却後、統計集についている「見直しシート」を活用して、復習を万全にしましょう!!

成績表の返却後、得点を記入しましょう。

教科・科目	設問ごとの得点							合計	今後の課題と学習プラン	第3回全統記述模試 得点
	1	2	3	4	5	6	7			
化学	酸化還元	小問集合	有機化学	気相平衡						
	/20 ☆	/33 ☆	/26 ☆	/21 ☆				/100		/100
生物	生殖	遺伝子	神経	植物の反応						
	/25 ☆	/25 ☆	/25 ☆	/25 ☆				/100		/100
地学	プレート運動	岩石・鉱物	地球の歴史	海洋	銀河					
	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆			/100		/100
世界史B	西洋の衝撃	近現代の経済	中欧・東欧史	動力源の歴史						
	/26 ☆	/24 ☆	/26 ☆	/24 ☆				/100		/100
日本史B	古代中世外交	近世文化史	近代外交史	近現代経済史						
	/30 ☆	/25 ☆	/25 ☆	/20 ☆				/100		/100
地理B	世界の気候	人口と都市	地球の課題	アジア地域						
	/25 ☆	/25 ☆	/25 ☆	/25 ☆				/100		/100
政治・経済	自由と平等	統治機構	日本の政治	国際経済	国民福祉					
	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆	/20 ☆			/100		/100
倫理	思想の源流	日本の思想	西洋思想	国際化と文化						
	/24 ☆	/26 ☆	/26 ☆	/24 ☆				/100		/100

※選択問題のある教科において、選択していない設問の欄は空白にておきましょう。

学力アップ・志望校合格のための復習法

効率よく学力を伸ばすうえで、受験した模試を繰り返し復習することは非常に大切です。全統模試受験後には学習の手引き（解答・解説集）を読むだけでなく、下記のアイテムを積極的に活用して学力アップ・志望校合格につなげましょう。

STEP 1 模試受験後

【学習の手引き】

解答・解説をしっかりと読み、自己採点シート（巻末掲載）で克服・補強すべき分野を明確にしましょう。

STEP 2 成績資料返却後

【個人成績表】

現在の自分の学力状況を確認し、弱点分野については学習アドバイスを参考に今後の学習に活かしましょう。

【ANTENNA（生徒用成績統計資料）】

個人成績表の見方や各データの確認とあわせて、見直しシートや学習対策（教科科目別）も利用しましょう。

- ・見直しシート

今回の反省点とこれからの課題をチェックし、今後の対策を立てましょう。

- ・学習対策（教科科目別）

総評・設問別講評・学習アドバイスなどを読み、復習のポイントをつかみましょう。

【解説講義】

とくに押さえておきたい問題を河合塾講師が解説します。詳細はホームページをご参照ください。

<http://www.keinet.ne.jp/kougi.html>

※Kei-Net 会員の登録（無料）が必要です。

STEP 3 長期休み中や入試直前期

STEP 1・2 に再度必ず取り組み、確実な学力向上につなげましょう。